

就労支援及び卒業後の定着フォロー支援の普及事業

# 成果報告書



学校法人武蔵野東学園  
武蔵野東高等専修学校

平成28年度 文部科学省委託事業

成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業

発達障害のある生徒など特別に配慮が必要な生徒の就労支援及び卒業後の定着フォロー支援の普及事業

## 目次

<b>第1章</b>	事業の概要……………2～9
	1-1 事業名
	1-2 事業の概要
	1-3 事業の背景
	1-4 事業の実施期間
	1-5 事業の実施体制
	1-6 事業推進委員会及び分科会実施経緯
<b>第2章</b>	就労支援及び卒業後の定着フォロー支援の状況報告……………10～11
<b>第3章</b>	就労支援年間活動モデルカリキュラム……………12～17
<b>第4章</b>	就労に向けた本校の教育プログラム……………18～47
	4-1 チャレンジショップでのインターンシップの実施状況とその成果
	4-2 校内実習の実施状況とその成果
	4-3 農業従事研修の実施状況とその成果
	4-4 障害のある生徒の保護者向け研修会の実施状況とその成果
<b>第5章</b>	まとめと課題……………48

## 第1章 事業の概要

### 1-1 事業名

平成28年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」『発達障害のある生徒など特別に配慮が必要な生徒の就労支援及び卒業後の定着フォロー支援の普及事業』

### 1-2 事業の概要

全国にある多くの高等専修学校が発達障害のある生徒など特別に配慮が必要な生徒の受け入れをしており、その教育支援・進路指導について困惑している状況がある。昨年度本校が大岡学園高等専修学校と連携して実施した教育支援体制に関する実態調査からも当該生徒の進路指導に困難な状況があることを把握することができた。本校は、昭和61年の開校以来、発達障害のある生徒など特別に配慮が必要な生徒に対しての進路指導について、就労支援を前面に打ち出して取り組んできた。あわせて卒業後の定着フォロー支援も継続・展開することにより当該生徒の安定した就労生活の継続を実現し、社会自立に結び付いている。また、就労支援のみならず卒業後の定着フォロー支援を展開することによって、企業及び福祉事業所との強固な信頼関係を築くこともできてきている。本事業では、本校で実践している当該生徒の就労支援及び卒業後の定着フォロー支援について、その取り組みをまとめ、これを全国の高等専修学校で学んでいる当該生徒の進路指導の一助となるよう普及していくことを目的とする。さらに、障害ある人が社会で生きがいを持って働けるよう就労の門戸を拡大していくことができるようにし、安定した社会生活が送れるよう環境の整備に微力ながら努めていくことも目指していく。

### 1-3 事業の背景

全国高等専修学校協会が実施した「高等専修学校の実態に関するアンケート調査」報告書から高等専修学校における発達障害のある生徒及び特別な支援措置が必要な生徒を合わせると、平成27年度は12.6%、平成26年度は14.0%を占めるという結果が出ている。平成21年3月に実施した調査(通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査)によると、中学3年生のうち発達障害等困難のある生徒の割合は、2.9%であり、そのうち75.7%が高等学校に進学するとのデータがある。つまり、高等学校に進学する発達障害等困難のあるとされた生徒の高等学校進学者全体に対する割合は約2.2%となる。つまり、高等専修学校は、高等学校の約6倍に相当する発達障害等の生徒たちの受け皿になっている実態が見えてくる。

昨年度本校で推進した「発達障害のある生徒等、特別に配慮が必要な生徒が学ぶための教育カリキュラム等の開発～職業教育と混合教育の成果～」事業において、大岡学園高等専修学校との連携で「発達障害のある生徒等の受け入れの現状及び教育支援体制に関する実態調査」を全国高等専修学校協会会員校(203校)を対象に実施した。その中で、当該生徒の進路未決定者がいた学校が31.7%もあった。また、進路決定において苦労している点として、「進路指導の方法がわからない」が39.7%、「受け入れ先の情報がない」が29.5%、「進路担当者の配置が難しい」が15.4%などの回答が得られている。当該生徒が社会において就労生活送っていくためには、障害ある人としての就労を目指す場合が多く、そのためには療育手帳の取得もしくは精神障害者保健福祉手帳を取得した上で、就労への取り組みを展開しなければならない。しかしながら、その手帳取得に向けた働きかけができていないのは約50%と、各学校において慎重に捉えられており、難しい問題があるように推察している。発達障害のある生徒など特別に配慮が必要な生徒の受け入れ先として高等専修学校が受け皿になってきている状況の中で、

当該生徒の教育支援及び進路支援の対応について難しい問題を抱えている現実がある。

障害者の法定雇用率は、現在2.0%である。平成30年には2.2～2.3%、平成35年には2.8%まで引き上げていこうという流れも出てきている。これは、障害ある人にとって就労の門戸が広がることにつながっていくはずであり、新規領域の職域開拓が試されることになる。職場における障害ある人への理解が今以上に必要となるであろうし、障害ある人にとっては、より柔軟な職業スキルが求められることになっていくと考えられる。また、障害福祉サービスを活用する現状の福祉就労は、サービスの選択肢が増えており、就労移行支援、就労継続支援A型、B型、生活介護等、選択することの難しさが出てきている時代であり、地域を中心とした情報収集をしていくことが必要不可欠なものとなっている。さらに、高等教育機関に進学した場合には、障害者雇用を主とした就職指導の体制と経験のない場合が多い。故に、卒業後の就職活動は、困難を極めることが予想される。

本校は、昭和61年の開校から平成27年度(2016年3月卒業)までに卒業した発達障害の方は941名、そのうち企業等への一般就労は501名(53%)、作業所等への福祉就労は340名(36%)、大学・短大・専門学校等への進学者は90名(10%)となっている。さらには、卒業後の定着フォロー支援によって、企業就労については定着率97%強という高い数値を保つことができてきている。本校の就労支援は、日本の障害者雇用促進策が、就職を endpoint として考えていた時期から、就職は通過点であるという信念を貫き、定着フォロー支援にこそ力を注いできた成果こそが定着率97%強という数値に結びついていると考えている。また、定着フォロー支援を継続展開してきたことにより、企業及び福祉事業所との強固な信頼関係を築き上げることもつながっている。そこで、本事業では、高等専修学校で成し得る、教育・進路支援について、本校が実践している教育・進路支援、特に就労支援及び定着フォロー支援の取り組みとその成果を情報提供し、広く全国の高等専修学校における進路指導に還元していく必要があると考えた。

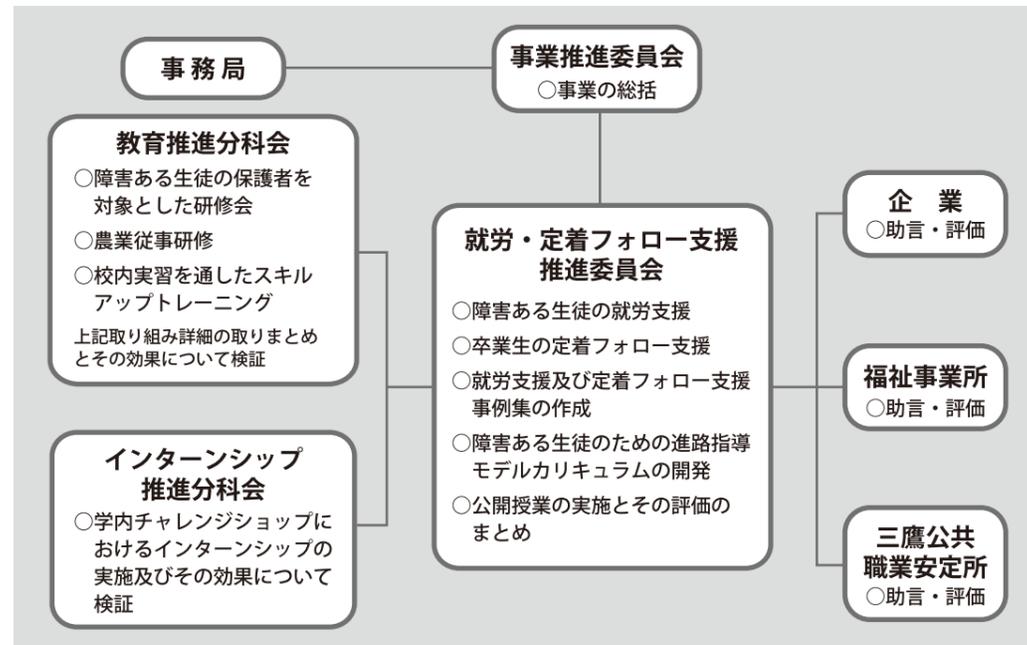
昨年度の事業において、「発達障害等のある生徒の就労支援及び定着フォロー支援」について、障害者雇用を推進されている企業を対象にアンケート調査を実施した。本校の取り組みに対して信頼と感謝の言葉を頂き、概ね好評価を頂いた結果とはなった。しかし、「初期のフォローは助かったが、数年後の問題は現場が行った」「定着フォロー支援があることを知らなかった」「就労支援センターとの情報共有や近況を確認してほしい」「定期的に本人の状況を確認してほしい」「就労支援センターとの役割分担や情報共有の仕方を明確にしてほしい」等の課題もいただいている。

また、毎年卒業生は増える一方であり、彼らを支援する担当者への負担が強いられている現状がある。現在、進路指導部内における就労支援担当者は5名、発達障害ある生徒は全学年で129名。その内、外部での就労支援に直接対応していく2、3年生は90名。毎年40名強の障害ある卒業生を社会に送り出している。その負担を軽減するためには、支援担当者を増やしていくことが真っ先に考えられる解決方法ではある。しかし、高等専修学校としての運営は厳しく、容易に担当者を増員することは難しい。これから先を見据えると、卒業後の定着フォロー支援を展開するためには、どのような仕組みを構築していけばよいのかということが本校における進路指導の命題となっている。本事業では、本校の就労支援及び定着フォロー支援がより効率的に行われるよう、これまでの取り組みについて整理、見直しを行っていきながら、この成果を広く全国の高等専修学校に普及すること、障害ある人が生きがいを持って社会で働けるよう就労の門戸を拡大していき、安定した社会生活が送れるようにすることが求められている。

### 1-4 事業の実施期間

平成28年7月1日～平成29年2月28日

## 1-5 事業の実施体制



### (1) 事業推進委員会

#### <目的>

事業全体の総括、委員会及び分科会との連携

#### <検討の具体的内容>

- ・事業の総括
- ・事業の進捗状況についての確認
- ・就労支援及び定着フォロー支援の状況確認
- ・事業成果の取りまとめ

#### <体制>

本校役職者

氏名	所属・職名	役割等
1 清水 信一	武蔵野東高等専修学校 校長	委員長
2 渡辺 正司	武蔵野東高等専修学校 校長代行	副委員長
3 橘川 直人	武蔵野東高等専修学校 進路指導副部長	委員
4 今城慎一郎	武蔵野東高等専修学校 進路指導副部長	委員

### (2) 就労・定着フォロー支援推進委員会

#### <目的>

本校の障害ある生徒の就労支援及び卒業後の定着フォロー支援の推進と企業・福祉事業所・三鷹公共職業安定所との連携

#### <検討の具体的内容>

- ・障害ある生徒の就労支援及び卒業後の定着フォロー支援の推進
- ・企業、福祉事業所、三鷹公共職業安定所との連携  
※就労支援及び定着フォロー支援にあわせて、構成機関となる企業及び福祉事業所とのミーティングを重ねていくこととする。
- ・就労支援及び定着フォロー支援事例集の作成
- ・就労支援年間活動モデルカリキュラムの開発・実証

#### <体制>

本校教員・チロル学園管理部主任及び構成機関の委員

氏名	所属・職名	役割等
1 白岩 忠道	(株)パソナハートフル 取締役管理統括部長	助言・評価
2 鈴木 英司	(株)トランスコスモス・アシスト 管理部部長	助言・評価
3 青木日出治	(株)ナルミヤ・ワンパ 取締役社長	助言・評価
4 山口 竜	(株)ベネッセスタイルケア 人財開発部 障がい者採用担当	助言・評価
5 小島 豪洋	(株)ワークスアプリケーションズ ビジネス・サポート・インフラグループ ゼネラルマネージャー	助言・評価
6 吉山真由美	(株)チヨダ 人事総務部課長	助言・評価
7 依田 晴樹	国立大学法人 東京大学 施設部 施設企画課 障害者集中雇用 PT 統括マネージャー	助言・評価
8 鎌倉ゆみ子	社会福祉法人 武蔵野千川福祉会 理事長	助言・評価
9 安藤 真洋	社会福祉法人 武蔵野 理事長	助言・評価
10 高森 知	特定非営利活動法人 東京自立支援センター 理事長・総合施設長	助言・評価
11 坂田 敦子	三鷹公共職業安定所 所長	助言・評価
12 渡辺 正司	武蔵野東高等専修学校 校長代行	委員長
13 橘川 直人	武蔵野東高等専修学校 進路指導副部長	副委員長
14 今城慎一郎	武蔵野東高等専修学校 進路指導副部長	副委員長
15 小林 恒雄	武蔵野東高等専修学校 進路指導部	委員
16 和田 忠雄	武蔵野東高等専修学校 進路指導部	委員
17 中澤 友哉	武蔵野東高等専修学校 進路指導部	委員
18 藤田 伸	武蔵野東学園 チロル学園管理部主任	委員

※1～18の構成員(委員)については、本校生徒の就労支援及び卒業生の定着フォロー支援の際に本校支援担当者と適宜ミーティングを実施し、助言・評価をいただくこととする。

※18の構成員(委員)については、勤務場所となるチロル学園が山梨県であるため、会議については、TEL及びメールでのミーティングを主とする。

※上記1～11は、構成機関の委員

### (3) 教育推進分科会

#### <目的>

就労に向けた教育支援の推進とその効果についての検証

#### <検討の具体的内容>

- ・障害ある生徒の保護者を対象とした研修会の取り組み詳細の取りまとめとその効果について検証
- ・農業従事研修の取り組み詳細の取りまとめとその効果について検証
- ・校内実習を通じたスキルアップトレーニングの取り組み詳細の取りまとめとその効果について検証

<体制>

本校教員及びチロル学園管理部主任

氏名	所属・職名	役割等
1 篠原 聡	武蔵野東高等専修学校 教諭	委員長
2 荻村 寿浩	武蔵野東高等専修学校 教諭	副委員長
3 藤田 伸	武蔵野東学園 チロル学園管理部主任	副委員長
4 壽山 博道	武蔵野東高等専修学校 教諭	委員
5 廣本 郁子	武蔵野東高等専修学校 教諭	委員
6 宮本 舞花	武蔵野東高等専修学校 教諭	委員
7 鈴木 沙蘭	武蔵野東高等専修学校 教諭	委員

※3の構成員（委員）については、勤務場所となるチロル学園が山梨県であるため、会議については、TEL 及びメールでのミーティングを主とする。また、農業従事研修実施において、現地でのミーティングを行うものとする。

(4) インターンシップ推進分科会

<目的>

学内にあるチャレンジショップを活用したインターンシップの企画・実施とその効果についての検証

<検討の具体的内容>

- ・インターンシップにおける具体的な取り組み内容の検討
- ・実施スケジュール及び体験生徒の割り振り調整
- ・インターンシップ実施によるその効果について検証

<体制>

本校教員

氏名	所属・職名	役割等
1 今城慎一郎	武蔵野東高等専修学校 進路指導副部長	委員長
2 志村 順	武蔵野東高等専修学校 2学年主任	副委員長
3 鈴木 真澄	武蔵野東高等専修学校 チャレンジショップ店長	委員
4 清水 貴秀	武蔵野東高等専修学校 教諭	委員

1-6 事業推進委員会及び分科会実施経緯

(1) 事業推進委員会

開催回数：6回（7月・9月・10月・12月・1月・2月）

<p>第1回 平成28年7月7日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①事業内容について</li> <li>②委員会・分科会の開催・会議議事録作成について</li> <li>③事業推進における留意事項</li> <li>④公開授業の準備</li> </ul>
---

第2回 平成28年9月15日（木）

- ①委員会・分科会の事業進捗状況
- ②公開授業実施に向けた最終確認
- ③その他（雑役務費に係る仕様書等について）

第3回 平成28年10月27日（木）

- ①委員会・分科会の事業進捗状況
- ②公開授業のまとめ
- ③事業推進における留意事項（雑役務費に係る仕様書再検討、契約期間の途中段階での支出証拠書類提出にあたって等）

第4回 平成28年12月24日（土）

- ①委員会・分科会の事業進捗状況
- ②成果報告のまとめ
- ③事業推進における留意事項（成果物製作について業者の確定等）

第5回 平成29年1月17日（火）

- ①委員会・分科会の事業進捗状況
- ②成果報告書・事例集作成について
- ③事業成果報告会について
- ④次年度契約継続に向けて

第6回 平成29年2月3日（金）

- ①事業のまとめ及び成果物について
- ②事業成果報告会について
- ③次年度契約継続に向けて

(2) 就労・定着フォロー支援推進委員会

開催回数：7回（7月・9月・10月・11月・12月・1月・2月）

第1回 平成28年7月6日（水）

- ①事業内容について
- ②委員の役割分担、留意事項について
- ③3年生の就労支援、卒業生の定着フォロー支援の状況確認
- ④委員の役割分担について
- ⑤公開授業実施に向けて

第2回 平成28年9月1日（金）

- ①3年生の就労支援状況確認
- ②卒業生の定着フォロー支援の状況確認
- ③就労支援の年間活動カリキュラム
- ④就労・定着フォロー支援事例集について
- ⑤公開授業実施に向けて

第3回 平成28年10月4日（火）

- ①3年生の就労支援状況確認
- ②卒業生の定着フォロー支援の状況確認
- ③就労支援の年間活動カリキュラムについて
- ④就労・定着フォロー支援事例集について
- ⑤公開授業実施のまとめ

- 第4回 平成28年11月1日(火)**  
 ①2,3年生の就労支援状況確認  
 ②卒業生の定着フォロー支援の状況確認  
 ③就労支援の年間活動カリキュラムについて  
 ④就労・定着フォロー支援事例集について ⑤その他
- 第5回 平成28年12月2日(火)**  
 ①2,3年生の就労支援状況確認  
 ②卒業生の定着フォロー支援の状況確認  
 ③就労支援の年間活動カリキュラムについて  
 ④就労・定着フォロー支援事例集について ⑤その他
- 第6回 平成29年1月10日(火)**  
 ①2,3年生の就労支援状況確認  
 ②卒業生の定着フォロー支援の状況確認  
 ③就労支援の年間活動カリキュラムについて  
 ④就労・定着フォロー支援事例集について ⑤その他
- 第7回 平成29年2月1日(水)**  
 ①2,3年生の就労支援状況確認  
 ②卒業生の定着フォロー支援の状況確認  
 ③就労支援の年間活動カリキュラムの最終確認  
 ④就労・定着フォロー支援事例集最終確認  
 ⑤成果報告書内容確認・事業成果報告会について

### (3) 教育推進分科会

開催回数：7回(7月・9月・10月・11月・12月・1月・2月)

- 第1回 平成28年7月11日(月)**  
 ①事業内容について ②保護者研修会について  
 ③農業従事研修について ④校内実習について  
 ⑤会議議事録作成について
- 第2回 平成28年9月14日(水)**  
 ①保護者研修会について ②農業従事研修について  
 ③校内実習について ④取り組み効果の検証について
- 第3回 平成28年10月21日(金)**  
 ①保護者研修会について ②農業従事研修について  
 ③校内実習について
- 第4回 平成28年11月29日(火)**  
 ①保護者研修会について ②農業従事研修について  
 ③校内実習について ④成果報告書への原稿執筆について

- 第5回 平成28年12月24日(土)**  
 ①保護者研修会について ②農業従事研修について  
 ③校内実習について ④成果報告書への原稿執筆について
- 第6回 平成29年1月10日(火)**  
 ①保護者研修会について  
 ②2月以降のスキルアップトレーニング実施に向けて  
 ③次年度の農業従事研修について ④成果報告書の原稿最終確認
- 第7回 平成29年2月2日(木)**  
 ①成果報告書の原稿校正 ②事業のまとめと次年度に向けて

### (4) インターンシップ推進分科会

開催回数：7回(7月・9月・10月・11月・12月・1月・2月)

- 第1回 平成28年7月6日(水)**  
 ①事業内容について ②5,6月のインターンシップの振り返り  
 ③7月のインターンシップのローテーション及び業務内容  
 ④インターンシップの効果の検証について
- 第2回 平成28年9月5日(月)**  
 ①7月の振り返り ②9月の確認及び効果の検証
- 第3回 平成28年10月7日(金)**  
 ①9月の振り返り ②10月の確認及び効果の検証
- 第4回 平成28年11月4日(金)**  
 ①10月の振り返り ②11月の確認及び効果の検証
- 第5回 平成28年12月2日(金)**  
 ①11月の振り返り ②12月の確認及び効果の検証
- 第6回 平成29年1月7日(土)**  
 ①12月の振り返り ②1月の確認及び効果の検証
- 第7回 平成29年2月3日(金)**  
 ①1月の振り返り ②2月の確認及び効果の検証  
 ③成果報告書の原稿最終確認 ④本分科会の振り返りと次年度に向けて

《会議スケジュール》

	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
事業推進委員会	○	○	○	○	○	○	○
就労・定着フォロー推進委員会	○	○	○	○	○	○	○
教育推進分科会	○	○	○	○	○	○	○
インターンシップ推進分科会	○	○	○	○	○	○	○
成果報告会							○

## 第2章

# 就労支援及び卒業後の定着フォロー支援の状況報告

### (1) 就労支援

本校には発達障害のある生徒の進路指導担当者として5名を配置している。生徒一人に対して担当者は、1企業・福祉事業所での実習を実行するにあたって、①実習依頼②実習前面接③実習初日④実習中日⑤実習最終日（振り返り）と5回程度の訪問をしている。このことから発達障害のある生徒の就労支援には、時間と労力を要することがご理解いただけると思う。

今年度、本校の障害ある生徒の就労支援及び定着フォロー支援の状況について担当者の出張日数及び支援件数をまとめてみたところ次のとおりとなった。

担当教員	今城	橘川	小林	和田	中澤
出張日数	147	132	134	116	78
3年生関連の就労支援件数	153	87	86	105	48
2年生関連の就労支援件数	29	10	19	38	12
卒業生の定着フォロー支援件数	123	108	62	35	13

平成29年1月末日現在

さて、今年度の発達障害のある生徒の就労支援の結果については、次のとおりとなった。

#### 【3年生】

3年生における職場実習は、就労に結びつくか否かを決定する、いわゆる採用試験にあたる取り組みである。5月中旬ごろから開始し、就労決定まで継続して行われるものである。職場実習の期間としては、平均して2週間程度となっている。1度の実習で就労決定する場合もあれば、複数回の実習を経て決定する場合もある。

- 発達障害のある生徒数……………46名
- 企業就労……………33名(71.7%)

職種	①事務系業務	11名	⑤飲食店・厨房周辺業務	4名
	②製造業務名	2名	⑥サービス諸業務	10名
	③物流所業務	2名	※①と④を重複する生徒	1名
	④小売販売周辺業務	6名	※②と⑥を重複する生徒	1名

#### 職種についての補足

- ①事務系業務……………PC入力、ファイリング、社内メールの仕分け、シュレッダー、コピー、他
- ②製造業務……………食品、機械部品、ライン作業、印刷、製本、他
- ③物流諸業務……………荷物運搬・整理、ピッキング、DM封入、梱包、発送準備、他
- ④小売販売周辺業務……………店舗バックヤードでの販売準備、品出し等販売補助、他
- ⑤飲食店・厨房周辺業務……………食器洗浄、調理補助、店舗整備、他
- ⑥サービス諸業務……………清掃、リサイクル、クリーニング、高齢者施設等周辺業務、他

- 福祉就労……………11名(23.9%)
- 障害福祉サービスの種類
  - ①就労移行支援 2名
  - ②就労継続支援A型 0名
  - ③就労継続支援B型 5名
  - ④自立訓練 1名
  - ⑤生活介護 3名

- 進学……………2名(4.4%)

#### 【2年生】

2年生での職場実習については、体験的要素が多く含まれているものである。初めて学校外での経験を積む場であり、この経験から課題を見出し、3年次の実習につなげていく意味が込められている。10月頃から開始され、全ての生徒が終了するのが例年3月となっている。実習の期間に関しては、2週間程度のものが多いが、事業所の状況によっては1週間程度のものもある。また、2年生での実習が3年生における就労を決定する実習につながる場合も少なくない。

- 発達障害のある生徒数……………45名
- 企業における職場実習……………33名(73.3%)
- 福祉事業所における職場実習……………9名(20.0%)

※2年生の職場実習は、現在も継続して展開されている

※職場実習をしない生徒3名(6.7%)は、進学希望者

### (2) 定着・フォロー支援

今年度(平成29年1月末日現在)の卒業生定着フォロー支援の対応については、上記に示した担当者の表から読み取れる。卒業生の定着フォロー支援について、前年度卒業生に対しては、就労1年目の春と秋に定期巡回支援を行っており、その際に定着フォロー支援を必ず実施することとしている。卒業後2年目以上の場合には、企業・事業所からの相談要請、本人・保護者からの相談要請を受けての対応が原則となっている。また、卒業生の個性を鑑みて、予防を兼ねた訪問も少なからずある。ただし、最近は雇用継続していただける企業・事業所が増えており、在校生の就労支援と重ねて実施する場合も多くなってきている。対応の件数については、上記担当者の出張状況表からわかるように、担当者全て合わせると341件(昨年508件)にも上る。昨年度に比べると件数が減っている。例年、卒業して1年経過するまでの定着フォロー支援において問題点が発覚し追加支援をしているところなのだが、昨年3月の卒業生が安定した就労生活を送っており追加支援が少ないところが一つの理由であると考えられる。これは、同表の在校生の就労支援件数587件(昨年458件)までには至っていないものの、本校が卒業生を社会に送り出し始めてから既に28年が経過し、941名が社会に巣立っている。卒業生は、毎年増える一方の中で担当者も対応に苦慮している事実がある。これから先の本校の進路指導において、この定着フォロー支援には、大きな課題が残されている。

◎尚、本校が日々取り組んでいる就労支援及び定着フォロー支援については、別に事例集を成果物としてまとめ上げている。ぜひ、報告書と併せてお読みいただければ幸いである。

# 第3章 就労支援年間活動モデルカリキュラム

## 【1学年】

〈活動目標〉 様々な働き方を知らせ、自己の現状に即した、目標設定を行う。

職業教育の意味を理解し、社会人となる自覚を持たせる。

保護者に対して適切な情報提供をし、職場実習に向けての準備をしていく。

月	生徒	保護者	進路担当者
4	<p><b>身だしなみの確認</b> ネクタイの結び方、リボン等の着用を含めた確認 袖や一番上のボタンの締めについても確認</p> <p><b>教材・教具を用いた作業前トレーニング</b> 教材・教具の名称を知るところから始めその活用の仕方を学ぶ 個人の能力・ADL(日常生活動作)・知的レベル・指示理解力(口頭指示・視覚モデルの提示)の把握</p>	<p><b>個人面談</b> 面談にて生徒の個性に関する情報共有・就労に向けた意識改革</p> <p><b>プランノートの使い方</b> 本校の取り組みに関しての理解を深め学校との連携を図る</p> <p><b>家庭への働きかけ</b> 挨拶・返事・買い物・交通ルール・家庭での役割(お手伝い)</p> <p><b>合同保護者研修会(学園全体)</b> 多くの仲間が存在を確認し新たな生活を確立していく</p>	<p><b>生徒の個性を把握する</b></p> <p><b>行政や法人主催の事業説明会への参加</b></p> <p><b>第1回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会</b></p> <p><b>合同保護者研修会(学園全体)</b> 新たに始まる学園生活を前向きなものとしていけるよう、基本としている明るい挨拶を受付で実践する</p>
5	<p><b>身だしなみ・常備品の確認</b> ハンカチ・ポケットティッシュ等の常備を含めた確認 内ポケットの有効活用</p> <p><b>縦割り清掃開始</b> 帚・塵取りの使い方・雑巾の絞り方</p> <p><b>教材・教具を用いた作業前トレーニング</b> 計数練習・練習用資材での封入練習・挨拶と報告</p>	<p><b>保護者研修会</b> 就労に向けた意識改革 職業教育の主体となる専門教科の体験実習を行い、教科への理解を深める</p> <p><b>家庭への働きかけ</b> 身辺管理…清潔感・持ち物管理 社会的マナー…食事のマナー 公共交通機関の活用等</p>	<p><b>生徒の個性を把握する</b></p> <p><b>行政や法人主催の事業説明会への参加</b></p> <p><b>学校生活への順応</b> 連休明けの学校生活については特に細かく観察し学年クラスと情報共有していく</p>
6	<p><b>作業学習開始</b> 労働への意味理解・習慣化(持続性等)、正確性・作業速度の強化、報告「終わりました」、報・連・相(ほう・れん・そう)</p> <p><b>身だしなみの確認</b> 気温の変化に応じた衣服の調節・汗の処理の仕方(汚れものの管理)を含めて確認</p>	<p><b>保護者研修会</b> 卒業生の保護者を招いてディスカッションを通して就労に向けてのイメージをつかむ 様々なタイプの先輩保護者の実践を聞き取り、個に即したヒントを得る</p>	<p><b>生徒の個性を把握する</b></p> <p><b>保護者研修会</b> 疑問点への対応 企業就労・福祉就労 愛の(療育)手帳…知的障害 精神障害者保健福祉手帳…発達障害 等</p>
7	<p><b>作業学習</b> 報告「終わりました」 計数(紙を数える・10の束) 進路の方向性に関わる生徒の能力に応じて、補助具を利用する等の工夫 一斉・個別指導の中で指示理解力を高める</p>	<p><b>三者面談</b> 療育手帳について 進路に対する意識 作業学習について 夏季休暇中の過ごし方 夏季休暇中の福祉事業所体験</p>	<p><b>生徒の個性を把握する</b></p> <p><b>三者面談</b> 必要に応じた情報提供</p> <p><b>第2回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会</b></p>
9	<p><b>作業学習</b> 4～7月の復習 報告「終わりました」 計数(紙を数える・10の束) 生徒の能力に応じて、補助具を利用する等の工夫 一斉・個別指導の中で指示理解力を高める</p>	<p><b>保護者会</b> 夏休みの過ごし方について振り返り、今後の教育についての確認 中学生までの様子と異なる意識や姿勢について列挙していくことで目標設定に役立てていく</p> <p><b>合同保護者研修会(学園全体)</b> 外部講師の講演から学ぶ</p>	<p><b>合同保護者研修会(学園全体)</b> 外部講師の講演より、新しい物の見方、考え方を吸収し、進路活動に役立てていく</p>

月	生徒	保護者	進路担当者
10	<p><b>作業学習</b> 報告「終わりました」 計数(紙を数える・10の束) 丁合い・封入 生徒の能力に応じて、補助具を利用する等の工夫 一斉・個別指導の中で指示理解力を高める</p> <p><b>農業従事研修(山梨・チロル学園)</b> 障害程度中度・重度の生徒を対象として、農業分野での職場体験をさせる(2泊3日) ジャムの箱作り・稲刈り・稲干し等</p>	<p><b>保護者研修会</b> 外部講師(企業・福祉事業所・行政の担当者等)を招いての講演を通して社会状況を現状を知る 個で役立てる事は、直ぐに行動を起こせるようにする</p> <p><b>農業従事研修</b> この研修で得たことを確認し、家庭生活と異なる事象に対して、社会生活をイメージする</p>	<p><b>保護者研修会</b> 進路指導に関する情報提供 企業・福祉・行政の方を招いて、現状に即した講演から、知識の整理を行う</p> <p><b>作業学習</b> この取り組みの様子から、より実社会に即したスキルを学べるように進め方について検証する</p>
11	<p><b>作業学習</b> 報告「終わりました」 計数(紙を数える・10の束) 丁合い・封入 生徒の能力に応じて、補助具を利用する等の工夫 一斉・個別指導の中で指示理解力を高める</p> <p><b>学園祭営業</b> 営業事前練習販売 挨拶・言葉遣い 金銭授受</p>	<p><b>保護者研修会</b> 前年度卒業生の就労の様子ビデオ研修を通して、企業就労及び福祉就労のイメージを具体化していく</p>	<p><b>保護者研修会</b> 前年度の卒業生の様子を1分程度にまとめ上映する場面に即したコメントを加えることで、強いインパクトを与えられるよう留意する</p> <p><b>作業学習</b> この取り組みの様子から、より実社会に即したスキルを学べるように進め方について検証する</p>
12	<p><b>作業学習</b> 報告「終わりました」 計数(紙を数える・10の束) 丁合い・封入 生徒の能力に応じて、補助具を利用する等の工夫 一斉・個別指導の中で指示理解力を高める</p> <p><b>第1回校内実習</b> 卒業生の働いている様子を映像で見て、労働についての知識を得ると共に自身の働く姿を想像し、作業意欲の向上 正確な作業、報告・伝達の徹底</p>	<p><b>三者面談</b> 進路の方向性が具体化しているかの確認 作業学習・校内実習の課題共有 地域の情報収集について進捗確認とその活用</p>	<p><b>三者面談</b> 進路指導における情報提供</p> <p><b>校内実習で生徒の個性把握</b> 作業学習で検証した進め方がどの様に活かされるか否かの再検証</p> <p><b>第3回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会</b></p>
1	<p><b>作業学習</b> 個人の作業能力の強化 作業速度の向上</p> <p><b>タイムカード練習開始(卒業まで)</b> 職場実習・就労を意識して、出退勤のシステムを覚える</p>	<p><b>合同保護者研修会(学園全体)</b> 内部講師による、教育現場に即した講演内容から活用できることを吸収していく</p>	<p><b>合同保護者研修会(学園全体)</b> 内部講師による講演内容から、進路指導に役立てることを整理する</p>
2	<p><b>スキルアップトレーニングカリキュラム</b> 丁合い・封入・封緘・ラベル貼り 個人の能力把握、挨拶・報告・連絡・相談の徹底、指示理解や手順の順守等について確認 休み時間の過ごし方の指導</p>	<p><b>保護者研修会</b> 今年度実施した研修会のまとめ OB会(卒業生及びその保護者の会)の存在について</p> <p><b>三者面談</b> 親の会での活動等 進路の方向性の決定</p>	<p><b>保護者研修会</b></p> <p><b>三者面談</b> 進路指導における情報提供</p>
3	<p><b>スキルアップトレーニングカリキュラム</b> 2月活動内容と同様</p> <p><b>1年次のまとめ</b> 働くということや生活面における挨拶・礼儀や身だしなみ等について再確認を行い、次年度につなげる</p>	<p><b>1年次のまとめ</b> 職業教育を実践してきた1年間を振り返り、その費やした時間から得た成果を確認する 更には、次年度に繋げる目標が到達点から逆算であることを最認識する</p>	<p><b>第4回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会</b></p>

【2学年】

〈活動目標〉 自立心・向上心・責任感を身につける。

希望する進路の方向性決定。

保護者に対して適切な情報提供をし、職場実習に向けての準備をしていく。

月	生徒	保護者	進路担当者
4	<p><b>作業学習</b> 報告・連絡の徹底 計数・丁合い・封入・はさみ、のりの使い方を学ぶ 役割分担の把握 周囲への気配りのあり方について学ぶ 必要に応じて、進路指導部が立ち会い、より実社会に即した職業スキルやマナーについて学ぶ</p> <p><b>卒業生の進路先確認</b> 先輩の進路先を確認する事で、自己目標をより具体化していく 何が必要であるかを確認する機会とする</p>	<p><b>個人面談・保護者会</b> 生徒の状況を作業学習・生活面からアセスメントし、情報共有する 就労に向けた具体的な準備の始まり</p> <p><b>行政・法人主催の説明会への参加</b> どの様な制度があって、どの様なサービスを受けることが出来るか確認する</p> <p><b>合同保護者研修会（学園全体）</b> 1年体験した職業教育で得た社会性・職業スキルを確認し、新たな生活の指針とする</p>	<p><b>各地域行政機関との情報交換</b> 福祉事業所の充足状況や新規設立等に関する情報収集を兼ねる</p> <p><b>実習先職場開拓</b> <b>第1回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会</b></p> <p><b>合同保護者研修会（学園全体）</b> 1年体験した学園生活を更に前向きなものとしていけるよう、基本としている明るい挨拶を受付で実践する</p>
5	<p><b>第2回校内実習</b> 職場実習に向けて、社会人として必要な体力を身につけ、心構えやマナーを学ぶ 個々の課題の確認、克服に努める スピードを意識して作業を行う 報告、相談、伝達する力をつける 状況判断力を身につける</p> <p><b>農業従事研修（山梨・チロル学園）</b> 障害程度中度・重度の生徒を対象として、農業分野での職場体験をする（3泊4日） 除草作業・さくらんぼ収穫・ニラの苗植え等</p>	<p><b>保護者研修会</b> 職場実習全般についての理解を深めさせると共に保護者としての心構えを持つ</p> <p><b>行政・法人主催の説明会への参加</b> どの様な制度があって、どの様なサービスを受けることが出来るか確認する</p> <p><b>農業従事研修</b> この研修で得たことを確認し、家庭生活と異なる事象に対して、社会生活をイメージする</p>	<p><b>保護者研修会</b> 職場実習全般に関する情報提供を行い、後期には本格化する実社会における進路活動に向けての心構えを伝える</p> <p><b>各地域行政機関との情報交換</b> 福祉事業所の充足状況や新規設立等に関する情報収集を兼ねる</p> <p><b>実習先職場開拓</b> 学校生活から鑑みる職域の新規開拓及び卒業生がお世話になっている事業所への打診を行う</p>
6	<p><b>作業学習</b> 校内実習での課題克服 計数・丁合い・封入・はさみ、のりの使い方を反復学習</p> <p><b>職場体験実習事前指導</b> 挨拶、返事を含めた基本的な事柄をはじめ、姿勢や目線を合わせることで、更には簡単な質問に堂々と答え、分からないことには「分かりません」と言える勇気等面接で役立つスキルアップを行い、意識する</p>	<p><b>保護者研修会</b> 卒業生の保護者を招いてディスカッションを通して、就労に向けての意識の向上を図る 様々なタイプの先輩保護者の実践を聞き取り、個に即したヒントを得る</p>	<p><b>保護者研修会</b> 疑問点への対応 企業就労・福祉就労 愛の（療育）手帳・知的障害 精神障害者保険福祉手帳・発達障害 等</p> <p><b>実習先職場開拓</b> 学校生活から鑑みる職域の新規開拓及び卒業生がお世話になっている事業所への打診を行う</p>
7	<p><b>作業学習</b> 報告・連絡の徹底 計数・丁合い・封入・はさみ、のりの使い方指示レベルを高める 残業を入れる</p> <p><b>職場体験実習事前指導</b> 電話による連絡・報告練習 挨拶・返事・身だしなみ・時間の意識</p>	<p><b>三者面談</b> 職場体験実習に向けて、生徒自身も学んでいること（電話による連絡・報告練習 / 挨拶・返事・身だしなみ・時間の意識）を確認し、家庭で準備していく事を知る 校内実習等における課題克服に向けて夏休み中の過ごし方に配慮していく 夏季休暇中に福祉事業所での体験活用</p>	<p><b>実習先職場開拓</b> 学校生活から鑑みる職域の新規開拓及び卒業生がお世話になっている事業所への打診を行う</p> <p><b>三者面談</b> 必要に応じた情報提供</p> <p><b>第2回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会</b></p>
9	<p><b>チャレンジショップにおけるインターンシップ開始（9月～2月末まで）</b> ショップにおける業務に従事することによって、働く経験を積み重ねる</p> <p><b>第3回校内実習</b> 通常の作業実習に加え、実習先の課題を分析し、それに対するシュミレーション訓練を取り入れる</p> <p><b>職場体験実習事前指導</b> 挨拶、返事を含めた基本的な面接対応練習 電話による連絡・報告練習 挨拶・返事・身だしなみ・時間の意識</p>	<p><b>進路説明会</b> 職場体験実習に向けての情報収集 職場実習日誌の記入から、事業所の方との関わりについて学ぶ 職場実習におけるルールの確認 進路希望調査①記入に関する留意事項の確認</p> <p><b>チャレンジショップにおけるインターンシップ開始（9月～2月末まで）</b> 職場体験実習とは別に、本校独自のインターンシップのあり方を知り、ショップが保護者の為のお店でもある意識を高めていく</p> <p><b>合同保護者研修会（学園全体）</b> 外部講師の講演から学ぶ</p>	<p><b>実習先職場開拓</b> 学校生活から鑑みる職域の新規開拓及び卒業生がお世話になっている事業所への打診を行う</p> <p><b>三者面談</b> 必要に応じた情報提供</p> <p><b>第2回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会</b></p> <p><b>実習調整</b> クラスと生徒情報・進路先情報を共有し、生徒の個性と職場の環境や業務内容等のマッチングをさせていく</p> <p><b>合同保護者研修会（学園全体）</b> 外部講師の講演より、新しい物の見方、考え方を吸収し、進路活動に役立てていく</p>

月	生徒	保護者	進路担当者
10	<p><b>職場体験実習（順次）</b> 職場実習詳細打ち合わせ（進路担当及びクラス担任） 事前面接・通勤トレーニング 企業若しくは福祉事業所における職場体験実習を通し、現場での作業を体験させると共に就労に向けての課題を明確なものとしていく 職場実習終了の電話報告（毎日） 職場実習日誌の記入 終了後、実習礼状の送付</p> <p><b>作業学習</b> 報告・連絡の徹底 計数・丁合い・封入・はさみ、のりの使い方 職場体験実習の事前・事後指導を意図した取り組みとしていく</p>	<p><b>保護者研修会</b> 外部講師（企業・福祉事業所・行政の担当者等）を招いての講演を通して社会状況を知る 個で役立てることは、直ぐに行動を起こせるようにする</p> <p><b>職場実習での家庭としての支援</b> 職場実習先の情報を把握する 実習先との連携・協力 生徒の家庭での様子について留意する 職場実習日誌の記入</p>	<p><b>実習先職場開拓</b> クラスと生徒情報・進路先情報を共有し、生徒の個性と職場の環境や業務内容等のマッチングをさせていく</p> <p><b>保護者研修会</b> 進路指導に関する情報提供 企業・福祉・行政の方を招いて、現状に即した講演から、知識の整理を行う</p> <p><b>職場体験実習フォロー支援</b> 随時巡回指導を行う 実習終了時に振り返りを行う 家庭への連絡を必要に応じて行い、実生活に活かすよう促す</p>
11	<p><b>職場体験実習（順次）</b> 10月活動内容と同様</p> <p><b>作業学習</b> 10月活動内容と同様</p> <p><b>学園祭営業</b> 営業事前練習販売 挨拶・言葉遣い 金銭授受</p>	<p><b>保護者研修会</b> 前年度卒業生の就労の様子ビデオ研修を通して、企業就労及び福祉就労のイメージを具体化していく</p> <p><b>職場実習での家庭としての支援</b> 10月活動内容と同様</p>	<p><b>実習先職場開拓</b></p> <p><b>保護者研修会</b> 前年度の卒業生の様子を1分程度にまとめ上映する場面に即したコメントを加えることで、強いインパクトを与えられるよう留意する</p> <p><b>職場体験実習フォロー支援</b> 随時巡回指導を行う 実習終了時に振り返りを行い実生活に活かすよう促す</p>
12	<p><b>職場体験実習（順次）</b> 10月活動内容と同様</p> <p><b>作業学習</b> 10月活動内容と同様</p>	<p><b>三者面談</b> 体験職場実習での反省をもとに今後の課題を明確にする これから実習に取り組む場合には、事前の確認を行う</p> <p><b>職場実習での家庭としての支援</b> 10月活動内容と同様</p>	<p><b>実習先職場開拓</b></p> <p><b>保護者研修会</b> 職場体験実習フォロー支援 随時巡回指導を行う 実習終了時に振り返りを行う</p> <p><b>第3回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会</b></p>
1	<p><b>職場体験実習（順次）</b> 10月活動内容と同様</p> <p><b>作業学習</b> 10月活動内容と同様</p>	<p><b>合同保護者研修会（学園全体）</b> 内部講師による、教育現場に即した講演内容から活用できることを吸収していく</p> <p><b>職場実習での家庭としての支援</b> 10月活動内容と同様</p>	<p><b>実習先職場開拓</b></p> <p><b>合同保護者研修会（学園全体）</b> 内部講師による講演内容から、進路指導に役立てることを整理する</p> <p><b>職場体験実習フォロー支援</b> 随時巡回指導を行う 実習終了時に振り返りを行う</p>
2	<p><b>職場体験実習（順次）</b> 10月活動内容と同様</p> <p><b>スキルアップトレーニングカリキュラム</b> 職場体験実習の反省を活かし、課題に取り組む 休憩時間の過ごし方について確認 丁合い・封入・封緘・ラベル貼り 報告・連絡・ミスへの対処</p>	<p><b>保護者研修会</b> 今年度実施した研修会のまとめ OB会（卒業生及びその保護者の会）の存在について</p> <p><b>三者面談</b> 2年次の実習における課題の確認 3年次の職場実習について 余暇の過ごし方（公共施設の利用等）について 生徒の家庭での様子について留意する 職場実習の記入</p> <p><b>職場実習での家庭としての支援</b> 10月活動内容と同様</p>	<p><b>実習先職場開拓</b></p> <p><b>職場体験実習フォロー支援</b> 随時巡回指導を行う 実習終了時に振り返りを行う</p> <p><b>保護者研修会</b> 手帳更新や次年度行う重度判定について知らせる 詳しくは、次年度再度行うことを強調</p>
3	<p><b>職場体験実習（順次）</b> 10月活動内容と同様</p> <p><b>スキルアップトレーニングカリキュラム</b> 2月活動内容と同様</p> <p><b>2年次のまとめ</b> 2年次の振り返りを行い、3年次の職場実習への意識付けから自覚していく</p>	<p><b>職場実習での家庭としての支援</b> 10月活動内容と同様</p>	<p><b>実習先職場開拓</b></p> <p><b>体験職場実習フォロー</b> 随時巡回指導を行う 実習終了時に振り返りを行う</p> <p><b>第4回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会</b></p>

【3学年】

〈活動目標〉 目標設定した進路に向け、スキルを高めていく。

労働の意味を理解し、職業人となる自覚を持たせる。

保護者に対して適切な情報提供をし、就労(企業・福祉)に向けた準備をしていく。

月	生徒	保護者	進路担当者
4	<p><b>作業学習</b> 報告・連絡・相談の徹底 特に相談が難しいので反復練習に取り組む</p> <p><b>第4回校内実習</b> 職場実習に備えて意識付けを行う 労働習慣の修得度を確認する</p> <p><b>卒業生の進路先確認</b> 先輩の進路先を確認することで、自己目標をより具体化していく 何が必要であるかを確認する機会とする</p>	<p><b>個人面談・進路説明会</b> 生徒の状況をアセスメントし、情報共有する 就労決定に向けた職場実習への意識を高める</p> <p><b>行政・法人主催の説明会への参加</b></p> <p><b>卒業生の進路先確認</b> 子どもの社会自立をイメージする</p> <p><b>合同保護者研修会(学園全体)</b> 2年体験した学園生活を更に前向きなものとしていけるよう、基本としている明るい挨拶を受付で実践する</p>	<p><b>実習先職場開拓</b></p> <p><b>行政・法人主催の説明会への参加</b></p> <p><b>各地域行政機関との情報交換</b></p> <p><b>第1回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会</b></p> <p><b>合同保護者研修会(学園全体)</b> 2年体験した学園生活を更に前向きなものとしていけるよう、基本としている明るい挨拶を受付で実践する</p>
5	<p><b>職場実習準備</b> 身だしなみの再確認 時間の管理 交通機関の利用 電話応対 職場実習の記入</p> <p><b>作業学習</b> 報告・連絡・相談 丁合い・封入・封緘・ラベル貼り 様々な作業種への対応</p>	<p><b>保護者研修会</b> 就労に向けての流れを再確認し、保護者として職場実習への心構えを持つ 療育手帳の成人更新・重度判定に関する細かな手続きについて理解する</p> <p><b>行政・法人主催の説明会への参加</b> 時の流れと共に変化していく精度については、常に情報収集し学園と共有していく意識を持つ</p>	<p><b>実習先職場開拓</b></p> <p><b>行政・法人主催の説明会への参加</b></p> <p><b>各地域行政機関との情報交換</b></p> <p><b>実習調整・実習日程調整</b> クラスと情報交換をし、2年次の実習を踏まえて3年次の実習先を調整する その際、課題に関する進捗も必ず確認し事業所の方に伝達していく</p>
6	<p><b>作業学習</b> 報告・連絡・相談 丁合い・封入・封緘・ラベル貼り 様々な作業種への対応</p> <p><b>就労決定に向けた職場実習開始</b> 職場実習詳細打ち合わせ(進路担当及びクラス担任)</p> <p>事前面接・通勤トレーニング 企業若しくは福祉事業所における職場体験実習を通し、現場での作業を体験させると共に就労に向けての課題を明確なものとしていく 職場実習終了の電話報告(毎日) 職場実習日誌の記入 終了後、実習礼状の送付</p>	<p><b>保護者研修会</b> 卒業生の保護者を招いてディスカッションを通して就労に向けてのイメージをつかむ 様々なタイプの先輩保護者の実践を聞き取り、個に即したヒントを得る</p> <p><b>職場実習での家庭としての支援</b> 職場実習先の情報を把握する 実習先との連携・協力 生徒の家庭での様子について留意する 職場実習日誌の記入</p>	<p><b>実習先職場開拓</b></p> <p><b>職場実習フォロー支援</b> 内定をいただけるように企業・家庭両社への緊密な連絡を心がける 巡回指導の徹底 内定がいただけない場合は、すぐに次の実習先の検討・開拓を始める</p> <p><b>保護者研修会</b> 疑問点への対応 企業就労・福祉就労愛の(療育)手帳…知的障害 精神障害者保健福祉手帳…発達障害 等</p>
7	<p><b>作業学習</b> 報告・連絡・相談 丁合い・封入・封緘・ラベル貼り 様々な作業種への対応</p> <p><b>就労決定に向けた職場実習</b> 6月活動内容と同様</p> <p><b>農業従事研修(山梨・チロル学園)</b> 障害程度中度・重度の生徒を対象として、農業分野での職場体験をする(3泊4日) 除草作業・ブラムの収穫・検品・バック詰め等</p>	<p><b>三者面談</b> 生徒の進路活動状況に応じた面談とする</p> <p><b>職場実習での家庭としての支援</b> 6月活動内容と同様</p> <p><b>農業従事研修</b> 社会性・職業スキルの向上を実感していく</p>	<p><b>実習先職場開拓</b></p> <p><b>職場実習フォロー支援</b> 6月活動内容と同様</p> <p><b>ハローワークへの求職登録・知的障害者の重度判定申請</b></p> <p><b>第2回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会</b></p>
9	<p><b>作業学習</b> 内定者は職場実習での弱点強化 未定者 職場実習に向けての課題克服 基本的な職業スキルの欠落があれば復習する 新たに事業所より提示された仕事の進め方があればその流れの通りに進めていけるよう、可能な限り同様な環境のもと反復演習し体得する</p> <p><b>就労決定に向けた職場実習</b> 6月活動内容と同様 更に同期で表面化している、問題行動に関して我が事として捉えることで、卒業後、役立てていけるようなスキルを身につけていく</p>	<p><b>職場実習での家庭としての支援</b> 6月活動内容と同様</p> <p><b>合同保護者研修会(学園全体)</b> 外部講師の講演から学ぶ</p>	<p><b>職場実習フォロー支援</b> 6月活動内容と同様</p> <p><b>求人票依頼・選考試験に向けて(9/15以降)</b></p> <p><b>合同保護者研修会(学園全体)</b> 外部講師の講演より、新しい物の見方、考え方を吸収し、進路活動に役立てていく この講師については、教育センターと連携して今必要な情報提供ができる方を探していく</p>

月	生徒	保護者	進路担当者
10	<p><b>作業学習</b> 内定者は職場実習での弱点強化 未定者 職場実習に向けての課題克服</p> <p><b>就労決定に向けた職場実習</b> 6月活動内容と同様</p>	<p><b>保護者研修会</b> 外部講師(企業・福祉事業所・行政の担当者等)を招いての講演を聞き、社会の状況を知る</p> <p><b>職場実習での家庭としての支援</b> 6月活動内容と同様</p>	<p><b>保護者研修会</b> 進路指導に関する情報提供 企業・福祉・行政の方を招いて、現状に即した講演から、知識の整理を行う</p> <p><b>職場実習フォロー支援</b> 6月活動内容と同様</p> <p><b>求人票依頼・選考試験に向けて(順次)</b></p>
11	<p><b>作業学習</b> 内定者は職場実習での弱点強化 未定者 職場実習に向けての課題克服</p> <p><b>就労決定に向けた職場実習</b> 6月活動内容と同様</p> <p><b>学園祭営業</b> 営業事前練習販売 挨拶・言葉遣い 金銭授受</p>	<p><b>保護者研修会</b> 前年度卒業生の就労の様子ビデオ研修企業就労及び福祉就労のイメージを具体化していく</p> <p><b>職場実習での家庭としての支援</b> 6月活動内容と同様</p>	<p><b>保護者研修会</b> 前年度の卒業生の様子を1分程度にまとめ上映する場面に応じたコメントを加えることで、強いインパクトを与えられるよう留意する</p> <p><b>職場実習フォロー支援</b> 6月活動内容と同様</p> <p><b>求人票依頼・選考試験に向けて(順次)</b></p>
12	<p><b>作業学習</b> 内定者は職場実習での弱点強化 未定者 職場実習に向けての課題克服</p> <p><b>就労決定に向けた職場実習</b> 6月活動内容と同様 進路未決定者についてはピンポイントの教科指導を行うことで、自信をつけていく 手順等で迷うケースが非常に多いので、どの様に行うかではなく、なにを作り上げていくかを具体的に知らせ理解を高める</p>	<p><b>三者面談</b> 進路先と保護者の付き合い方 未決定者への配慮</p> <p><b>職場実習での家庭としての支援</b> 6月活動内容と同様</p> <p><b>障害福祉サービス受給者証申請(福祉就労)</b></p>	<p><b>職場実習フォロー支援</b> 6月活動内容と同様</p> <p><b>求人票依頼・選考試験に向けて(順次)</b></p> <p><b>障害福祉サービス受給者証申請の情報提供(福祉就労)</b></p> <p><b>第3回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会</b></p>
1	<p><b>作業学習</b> 内定者は職場実習での弱点強化 未定者は12月のカリキュラムを継続する</p> <p><b>就労決定に向けた職場実習</b> 6月活動内容と同様</p> <p><b>金銭について(給与等)</b> 給与をいただくこと、またその使い道等について考える</p>	<p><b>合同保護者研修会(学園全体)</b> 内部講師による、教育現場に即した講演内容から活用できることを吸収していく</p> <p><b>職場実習での家庭としての支援</b> 6月活動内容と同様</p>	<p><b>合同保護者研修会(学園全体)</b> 内部講師による講演内容から、進路指導に役立てることを整理する</p> <p><b>求人票依頼・選考試験に向けて(順次)</b></p> <p><b>職場実習フォロー支援</b> 6月活動内容と同様</p>
2	<p><b>スキルアップトレーニングカリキュラム</b> 作業学習のまとめ</p> <p><b>就労決定に向けた職場実習</b> 6月活動内容と同様</p> <p><b>内定先ご挨拶</b> 内定先にご挨拶に伺い、4月からの入社・入所に向けての心構えを持たせる</p>	<p><b>内定先ご挨拶</b> 内定先にご挨拶に伺い、家庭の協力体制を示し、4月以降良好な関係が築けるようにしていく</p> <p><b>保護者研修会</b> 今年度実施した研修会のまとめ OB会(卒業生及びその保護者の会)の存在について療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の更新 障害福祉サービスの利用について 企業・福祉事業所との付き合い方 余暇の過ごし方 卒業後も、学園とは連携している事を再確認し、卒業後の定着に向け連携していくことを確認</p>	<p><b>内定先ご挨拶(生徒・保護者含む)</b> 内定先と生徒・保護者の良好な関係が気付けるように努める (このタイミングで、契約を交わす事が多い)</p> <p><b>保護者研修会</b> 卒業後も、在学時同様職場定着フォロー支援を展開していることを強調し、何か変化があった時には、嬉しいことでも、困ったことでも連絡できる環境であることを強調する</p>
3	<p><b>内定先ご挨拶</b> 内定先にご挨拶に伺い、4月からの入社・入所に向けての心構えを持たせる</p> <p><b>スキルアップトレーニングカリキュラム</b> 作業学習のまとめ</p> <p><b>3年間のまとめ</b> 社会に向けての心得 企業への入社、福祉事業所への入所に向けた気持ち作り、意欲の向上を目指す</p>	<p><b>内定先ご挨拶</b> 内定先にご挨拶に伺い、家庭の協力体制を示し、4月以降良好な関係が築けるようにしていく</p> <p><b>障害福祉サービス事業所との利用契約</b> 受給者証の発行手続きの進捗確認 事業所との契約</p>	<p><b>内定先ご挨拶(生徒・保護者含む)</b> 内定先と生徒・保護者の良好な関係が気付けるように努める</p> <p><b>入社(所)日/入社(所)式等の確認</b></p> <p><b>第4回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会</b></p>

## 第4章 就労に向けた本校の教育プログラム

### 4-1 チャレンジショップでの インターンシップの実施状況とその成果

Challenge Shop  
ゆい & あい

#### ～Shop 紹介～（店頭でご案内している文書）

このショップは武蔵野東学園の『職業教育』の場として開店したのですが、広く一般の皆様もご利用できますので、お気軽にお立ち寄りください。ショップでは学園在学生在が交代で店員を務めています。

ショップではコーヒーなどの飲み物、サンドイッチやカレーなどの軽食をご用意しております。また店内には在校生が制作した陶芸品、近隣の福祉作業所製のクッキー、学園の教育活動を支援して下さる企業や、個人のボランティアの方々からご提供いただいた製品が陳列されており、お求めやすい価格で販売しておりますので、ぜひ一度ご覧ください。

また当学園には多数の障害児が通学しており、彼らの社会自立のための訓練の場としてもこのショップが活用されています。障害児に対する皆様のご理解が少しでも深まるよう、一人でも多くの地域住民の方々にご利用くださることを願ってやみません。

支配人 今城 慎一郎（武蔵野東学園 武蔵野東高等専修学校 教諭）

#### (1) インターンシップ実施状況 （平成29年1月末まで）

実施月：5～2月

実習日数：1日（ローテーション）

実施人数：延べ 93名（1月末現在）

※全て、2学年中心



▲明るい店舗販売



▲接客にも挑戦



▲調理・製菓コースとの連携



#### (2) トピックス

- ・学園ホームページ up 回数……76回（平成29年2月末まで）  
<http://www.musashino-higashi.org/yuai&challenge.php>
- ・来客数……月平均 約800名
- ・レンタル棚利用者（団体）……みどり作業所／工房 時  
デイセンター山びこ／パソナハートフル／PassPort  
キーストーン／ベラドンナ／陶工房ひでどろ／中谷さん  
新田さん／鈴木さん／ラグビー部／むうぶ舎／shop 商品（順不同）
- ・売れ筋商品……卒業生がお世話になっている福祉事業所のクッキー
- ・売れ筋食品……日替わり 500円ランチ
- ・おすすめ……調理・製菓コース特製のワンコインランチ  
※調理・製菓コースとの連携を始めて、早5年。昨年は、一度だけ調理・製菓コースの生徒が厨房に入り、盛り付けを行い、お客様に提供する試みがありました。大変好評でした。因みにメニューは【唐揚げ定食】【生姜焼定食】【カツ丼】【牛丼】【ハンバーグ定食】で、計13回実施しました。

#### (3) 生徒の感想文から

##### 【率直な感想】

- ・お客様への対応などが学べて良かったです。
- ・最初声を出すのは緊張したが、自分の頑張り次第で結果が変わるので嬉しかった。
- ・声をかける時に中途半端な声量だと何を言っているのかわからないと思いました。
- ・学校の授業だけでは出来ない、良い体験が出来たと感じている。
- ・お客さんが沢山来ると嬉しいし楽しいが、誰も来ないと何もすることがなく暇。
- ・将来役立つことを学ぶことが出来て、とてもためになりました。
- ・1回目は恥ずかしさが強く、全く声を出せず正直嫌な事も多かったが、2回目は1回目の失敗を取り返し、満足する結果が出せた。
- ・課題としていた人と関わることが出来て良かった。
- ・最初の頃は声を出す事があまり出来ませんでした。ですが、回数を重ねていくことで出す事が出来ました。
- ・実際に声を出してお客様を呼び込んでみると色々な人がいてどう対応するか迷ってしまいました。
- ・自分が思っていたよりお客さんが来なくて、呼び込むのが大変だった。
- ・お客様に会話をふられたりなど、コミュニケーション力が必要だと感じた。
- ・チャレンジショップのご飯が美味しかった。自分の知らない事を知れる良い時間になりました。
- ・自分の知らない事を知れる良い時間になりました。
- ・人と多く話せるため、コミュニケーション力がついた。
- ・品物が沢山売れた時はとても嬉しかったです。
- ・店の手伝いに行くことがなかったので、新鮮な気持ちになった。
- ・最初は人が全く来なかったが、一人の人から声を出した方が良いと言われたので声を出したら売れ始めた。とても勇気がいった。
- ・A君、B君と一緒にやりました。二人とも何回も行っているの自分なりにやり方を教えてくれた。

- ・クッキーを沢山売る事が出来て嬉しかったです。
- ・最初店頭販売をやった時は分からない事が多かったが、やっていくうちに出来るようになって嬉しかった。
- ・お菓子の販売を経験することが印象に残りました。
- ・お菓子の販売をした時に、お客様が買ってくれたことが嬉しかったです。
- ・商品が売れると嬉しい。でもずっと立ちっぱなしなので足が痛くなる。
- ・知らない事ばかりで初めは緊張して1回の計算に時間をかけすぎてしまった。
- ・緊張する事もあったけど、積極的に仕事に取り組みました。
- ・初めてチャレンジショップに行っ、陶芸販売の経験が生きていい販売になりました。

#### 【勉強になったこと】

- ・お客様への対応、声かけの大切さなどが学べました。
- ・お金の大切さ、人への対応の仕方を学べた。
- ・接客の時に、硬すぎず柔らかすぎないようにする事が大事だと思いました。
- ・お金という大切なものを扱う事を自覚し、ミスをしてはいけないということがわかった。
- ・声の大きさを変えたり、表情を豊かにすることで買いに来てくれる。
- ・挨拶をする大切さや、人との関わり方が一番勉強になりました。
- ・何事も挑戦で、嫌な事もやりたくない事もあったが、取り組む気持ちを少し変えるだけで自分もお客様の態度も変わる。
- ・人との関わり方やお客様への対応の方法を学んだ。
- ・人とのコミュニケーションの大切さ。お金を稼ぐための大変さ。商品の扱い方。
- ・人に物を売るという事に強く責任を感じた事が勉強になりました。
- ・お客さんに話しかけたり、簡単な説明などを考えたりすること。
- ・声の大きさや表情などによって、お客様が品物を購入してくれると感じた。
- ・お客様の接し方や売っている物の良さを知る事で、その商品の説明が出来た事。
- ・社交性を学ぶことが出来た。
- ・人との関わり方を学べたことです。
- ・声かけやお客様の対応を心掛けることで対応力を深めることができ、勉強になった。
- ・売るとい事の大変さが分かった。声を出さないと全く人が来ない。
- ・「いらっしゃいませ」等と声かけや精算をするのは同時に一人では出来ない。
- ・売っている時の声の大きさを考える。
- ・店頭販売で人に買ってもらうためにははっきりと言わないといけない。
- ・会計報告という苦手な事を克服することができ、とても嬉しかったです。
- ・C君と協力して間違えないで計算をしたこと。
- ・おつり等、一つの事だけを考えてはいけないということ。
- ・お金の計算を間違っはならない必要さを知った。
- ・相手の顔を見て、笑顔よく挨拶することと、お金の精算でおつりのミスがない事の確認が出来ました。
- ・お金の計算や挨拶などお客様に対応し協力する事が勉強になりました。

#### 【後輩たちへ一言】

- ・様々な事を学び、感じられるので是非頑張ってください。
- ・商品の簡単な説明が出来るようにしておくといい。
- ・計算テストの授業がかなり役立ちます。
- ・お金の管理は大切である。しっかりと間違いがないか確認すること。
- ・恥ずかしさを捨てて、とにかく思いっきりやってみな！！
- ・チャレンジショップはやって損はしないので体験した方がいい。頑張れ！
- ・面倒だと考えるのではなく、少し考え方を変えるだけでとても楽しくなる。自分の成長にもなるので是非そんな気持ちで取り組んでほしい。
- ・最初は恥ずかしくて声が出せないかもしれないけど、一度出せば後は楽しいから頑張っ！
- ・やって良い事、悪い事はちゃんと考える。人に教えられた事はしっかりやる。
- ・計算をある程度出来るようにしておく事と声を出す事、敬語を使えるようにしておく事。
- ・最初は分からなくて大変かもしれませんが、この体験が仕事の大変さを知るきっかけになると思います。
- ・聞こえる声で、明るい表情で話した方が良い。
- ・売っている商品の良さを知る事が大事！
- ・挨拶は大きな声で。返事はハッキリと。
- ・人に物を売る事の難しさを学んで下さい。
- ・率先してお客様に明るく声かけをすることが大切。落ち着いて対応する。
- ・勇気を出して声を出す！
- ・いつ行くかは当日に分かります。行くと思う心構えをいつでもしておくこと。
- ・お金の計算を間違えないように気をつけて下さい。
- ・挨拶をしっかりして笑顔でやってほしいと思います。
- ・職場実習のいい経験になると思います。頑張っ下さい。
- ・頑張っください。
- ・袋いりますか？は忘れずに聞くこと。
- ・初めは緊張すると思うけれど、落ち着いてやれば必ず上手くいく。
- ・後輩の皆さんもチャレンジショップに行ってみてください。
- ・チャレンジすれば将来役立つのでぜひチャレンジして下さい。

## (4) 考察

先輩から引き継がれる、2学年恒例の【チャレンジショップにおけるインターンシップ】。

障害のある生徒は、とても楽しみにしている。「いつからですか？」と質問してくる生徒が4月当初は本当に多い。一方、障害のない生徒は、一様に緊張してShopにやってくる。

まずは、衛生面に関するレクチャー。食品衛生責任者の資格を得ている教員より、念入りに手の洗いを習う。中には、

その前段階に行うエプロン着用で手間取る生徒もいる。意外と背面での結びや、クロスにしての結びに不慣れな生徒が多い。初めてのこと、日ごろあまり意識していないことを、教室を離れて行うだけで、生徒たちは必ず緊張し、体を強張らせいく。この緊張を解きほぐすのが、テーブル拭きである。テーブルなんて、誰でも拭けると感じるであろうが、利き手の違いによって、拭き方が異なる。正確には拭き方ではなく、消毒の仕方なのだが……。

右利きの生徒を例に取ってみる。(「衛生面も念入りに」画像参照)

右利きの生徒は、最後(画像の様)に、左側手前隅で消毒を終える。この理由は、どうしても、左手がテーブルに付いてしまうからだ。折角、全体を除菌したテーブルに手を付くと、台無しである。そうならない様に、右利きの生徒は右側奥からスタートし、隙間を空けない様に左側へとスライドしていく。こうすれば、万が一左手を付いていたとしても、きちんと除菌ができる。そして、最後の仕上げで、左側手前隅(角)をつかみ取る様に仕上げていく。そのやり方を、実演すると、一気に生徒たちの目の色が変わる。実際に行ってみると、その達成感からか、「飲食店では、テーブル拭きだけとってもこんなに、違うんだ!」と、ほんの少し専門家になったような気分になるのだ。その後、必ず「実は、アルコールは布巾に噴霧し、決してテーブルに直接噴霧しない」と、ルールを定める。これには、諸説あるがどうやら均一に消毒していく為という事が一番の理由である。このこのルールの説明をすると、また一步、専門家に近づいた様に感じている。

店内整備が終了すると、間髪いれずに「いらっしゃいませ!!」の発声練習を行う。その後、店頭で実演してみると、響く声は100%障害のある生徒の声である。その声に刺激を受けて、どんどん大きく感情がこもっていく。この変化を垣間見る事は、とても気持ちの良いものである。

必然的に、行き交う通行人が足を止め「美味しいクッキーはいかがですか!」や「500円のランチ営業しています!!」に反応する。その瞬間、通行人は【お客様】へと変化する。

このタイミングで、商品や店舗内に足を向ける言葉を掛けるのは、障害のない生徒たちである。

店頭販売活動で難しい事は、「ご案内」と「販売活動」を並行して行わなければならないことだ。これに、お金の計算が入ると、日常では考えられない計算ミスをする。この役割分担を、当日パディとなった生徒がその場で決めていく。

今年の生徒は、お釣りの間違いがほぼなかったが、過去には支払われた金額よりも多くのお釣りを渡してしまっているケースもあった。このミスを改善する為に、現場教員より『独自の売上伝票』が提案され、試行したところ、ミスが激減した。

遊びではない、実際にお金をいただいている【プロ】として、販売活動をしていくのだという意識が、回を重ねるごとに育っていく。その原動力になっているのは、Shopで食事をとり、学校へ戻る時に持ち帰る『独自の売上伝票』を元に報告する時の、誇らしさなのではないかと推測している。「私たちはミスなく、こんなに売り上げた!」、「お客様から、元気が良いね!ありがとうと言われたこと」が、本当に嬉しかったのだろう。短い感想からもうかがえる。



▲衛生面も念入りに

このShopができてもう少しで丸11年。

Shopは、自分たちのお店である。2年生が中心に、インターンシップができる。

座学よりも実学を好む生徒たちであるからこそ、職業教育を求めているはずである。次年度以降も、伝統を継承しつつ、このインターンシップを輝かせていきたい。

## 4-2 校内実習の実施状況とその成果

1年次に1回、2年次に2回、3年次に1回行われる1週間の作業週間である校内実習では、終日作業を集中的に行うことで、様々な職場環境に適応する力を養っている。基礎的な作業練習から、実際の受注作業まで幅広い作業を経験することによって、様々な作業技術を身につけ、また、実際の職場環境を疑似体験することによって、生徒たちは社会人としての心構えやマナー、職場に必要なコミュニケーションを学んでいく。

### (1) 各学年の目標

#### <1学年>

- ・卒業生の先輩たちの働いている様子を映像で見て、労働についての知識を得る。自分の働く姿を想像し、作業意欲を向上させる。
- ・正確な作業を心掛ける。
- ・報告・伝達を行う。

#### <2学年>

- ・職場実習に向けて、社会人として必要な体力を身につけ、心構えやマナーを学ぶ。
- ・職場実習に向けて、個々の課題の確認、克服に努める。
- ・スピードを意識して作業を行う。
- ・報告、相談、伝達する力をつける。
- ・状況判断力を身につける。

#### <3学年>

- ・職場実習に向けて、社会人として必要な体力を身につけ、心構えやマナーを学ぶ。
- ・職場実習、就労に向けて、個々の課題の再確認、克服に努める。
- ・スピードと正確性を意識して作業を行う。
- ・報告、相談、伝達を確実にを行う。
- ・状況判断力を身につける。

### (2) 平成28年度の実習日程

- <1学年> 12月12日(月)～16日(金) 5日間
- <2学年> 5月16日(月)～20日(金) 5日間  
9月6日(水)～9日(金) 4日間
- <3学年> 4月18日(月)～22日(金) 5日間

### (3) 平成 28 年度実施内容

#### < 1 学年 >

- ・卒業生の職場での様子（映像）鑑賞
- ・計数・丁合い練習
- ・ハサミ切り練習
- ・スーパーのビニール袋への封入、冊子計数、袋の計数、1点封入、段ボール箱作り、箱詰め、梱包



▲冊子の計数



▲ビニール袋の計数



▲ビニール袋への封入

#### < 2 学年 >

- ・冊子・封筒計数、2点封入、キャラメル包装、段ボール箱梱包
- ・冊子計数、帯どめ、箱詰め、梱包
- ・冊子計数、DM 2点丁合い、封入、封緘、ビニール封筒封緘、宛名ラベル貼り、郵便番号区分分け、結束
- ・試供品4点封入
- ・計数・丁合い練習
- ・説明会配布資料製本



▲冊子の計数



▲帯どめ



▲梱包

#### < 3 学年 >

- ・冊子の計数、ロックス掛け、箱詰め
- ・1点封入、宛名ラベル貼り
- ・計数、丁合い、封筒づくり練習



▲ロックス掛け



▲1点封入



▲完成品の搬出

### (4) 生徒の感想

#### 1 年 A さん

私は初めての校内実習で大きなミスをしてしまいました。今回の仕事は計数、封入、検品、梱包の流れで商品を作っていたのですが、一番大切な検品の所でミスをしてしまいました。1つのビニール袋に2枚のチラシが入っており、それに気がつかずに流してしまいました。今回は余りのビニール袋、チラシが数枚ありそれはおかしいということになり、検品をやり直しました。調べ直して間違いに気がついて良かったのですが、気がつかずに送ってしまっていたらその会社の信頼を失ってしまうところだったかもしれません。そして本来ならば1つのミスがあると、そのミスが解決するまですべての商品をもう一度検品し直さなければならなかったのですが、その会社との信頼関係を築けているということもあり、今回は1箱の検品だけですみました。このミスは今後のことを考えると私にとって良かったことかもしれません。このミスによって検品の大切さ、信頼関係の大切さ、仕事の大切さについて良く学ぶことができました。このミスを活かして今後の実習、就職を頑張っていこうと思います。

#### 1 年 B さん

5日間の校内実習を終えて良かった点と改善点がたくさん見つかりました。まず、良かったところは分からなかった時に自分ですぐに上司（先生）に相談できたところです。会社で勤めた時に、報告・連絡・そして相談を自ら積極的にして、相手とのコミュニケーションがまず必要だと思いました。一方で、反省点もたくさん見つかりました。1つは上司が全員に指示された後の返事に対する声がかさかったところです。もう1つは作業中に突然指示が出された時に、作業に夢中になり、聞く態勢ができていなかったところです。これらを改善するためには意識と意欲、そして気持ちの切り替えが必要だと感じました。これからの学校生活でも実習で学んだことを意識していきたいです。そして、いよいよ1年後は職場実習があるので、まずは企業で働くということを意識したいです。

#### 2 年 C さん

今年三つ折りをして思ったことは、1年生の時はなかなか端を合わせる事が難しく、全く出来ませんでした。今年はとても上手に出来て、先生方からも1年生の時よりも上手になっているねと言われてとても嬉しかったです。更に、初めてキャラメル包装をしてみて、全てを同じように折ったりガムテープを貼ったりすることはとても難しいことでした。校内実習で気をつけていたことは、ミスを隠したりせずすぐに先生や担当の人に言い、その反省をすぐ行動に移すことです。

職場実習でも担当の人に言われたことをすぐ行動に移し、分からなかったりミスをしてしまったりした場合には、「分からないので教えてください」「ミスをしてしまい、申し訳ありません」と素直に話します。職場実習でも頑張ります。

## 2年Dさん

2年生の校内実習では、1年生の校内実習よりも多くの仕事をしました。キャラメル包装や箱詰めなど、様々な仕事をしました。しかし、集中力が続かずにミスをしたり、自分の基準で物事を進めてしまったり、適当になってしまったりと問題となる行動もしてしまいました。例えばキャラメル包装の時、私はテープを切りましたが、ちゃんと切れなかったり斜めに切れてしまったりと自分の基準で切ってしまいました。今では、とても反省しています。

でも、他の人より多く働いていた時もありました。それは4日目です。自分だけに頼まれた仕事でやる気が上がりました。そして、自然と集中力も続いて、その日の担当の先生からの評価は高かったです。その時、嬉しく、やりがいを感じました。「仕事って良いな」と初めて思いました。

もうすぐ職場実習があります。この校内実習でやってきたこと、学んできたことを活かして、良いものにしたいです。

## 3年Eさん

校内実習では色々な事を学び、職場実習の時に生かすことが出来ました。特に時間管理の大切さと集団で仕事をする時の人との関わりを学びました。

1年生で初めての校内実習の時に休憩時間が終わるギリギリにトイレに行き、急いで戻ると先生がもう話を始めており、暫く話を聞いていました。先生が「残業、出来る人。」と言うと周りの皆が手を挙げていましたが、自分は、話の途中から聞いたので状況が分からず手を挙げませんでした。すると担任の先生から「なぜ手を挙げないのか。」と注意されました。話の内容は「残業を頼まれた場合は、時間が許せば残業しましょう」という話であったようです。このことから、時間ギリギリではなく、余裕を持って仕事場に戻るためには人に言われずに自分で時間を把握、管理しなければいけないことを知りました。

また、集団で仕事をする時には、同じ仕事をしている人がうっかりミスをした時は、声を掛け合っ  
てミスを無くし、仕事を効率よく進められるようにしました。自分一人でも仕事が出来ますが、同じ仕事を集団でやる方が早く終わり、また、自分では気付かないミスを見つけてもらうことが出来るので、お互いに適度に関わりあいながら仕事を進める方がよいことが分かりました。他にも仕事に対する積極的な行動や報告など、どれも実際に職場実習へ行った時に役立ちました。校内実習をやったお陰で職場実習がスムーズに出来たので、改めて校内実習をやった良かったと思います。

就労後も校内実習で学んだ事を忘れないようにしようと思います。

## 3年Fさん

この学校で校内実習を3年間経験してきました「社会人になるということは大変なことだ」ということを実感しました。

校内実習は袋詰めや丁合いなどの作業が中心で、社会人として適応していくための練習が在学中にできるととても貴重な体験ですが、これはそれぞれの業者が下請けとしてこの学校に依頼をしているため、いくら練習といえどもミスが許されない作業です。

一番心に残っているのは1年次。はじめての校内実習であり、それまで本物の作業を経験したことはありませんでした。内容は高級チョコレートの箱づくりをしました。そのなかで私は一番難しい作業に挑戦しました。その作業は、チョコレートの仕切りを折る作業で、慎重さが問われる作業です。そのとき私は、自分が不器用なことを忘れ、できると過信していました。その結果、ミスを繰り返してしまうこととなりました。たった1週間の期間ですが、同じミスを何度も繰り返してしまいました。

そして、注意を受けることがあまりにも多く、次に失敗したらこの作業をさせてもらえない状況に陥りました。その後の作業でも同じ失敗をしてしまい、ついには自分のミスを報告せずに隠してしまいました。

その後、その場しのぎでミスを隠してしまったことについて、考えました。お金を払って失敗作を手にしたお客様がっかりする気持ち、その人が販売元に苦情を言ってきたらどうなるか、販売元が製造元に苦情を言ってきたらどうなるか…。自分が隠したたった一つのミスが、消費者、業者、学校とたくさんの人に迷惑をかけてしまうことに気が付きました。それ以来、「どんな小さなミスでも絶対に報告する」、と心に決めました。このことが校内実習で得た最大の教訓となりました。

校内実習で得ることのできたこの教訓は、実際の職場実習でも実践しました。このことは、卒業後社会人となった時も、忘れずにいたいと思います。

## (5) 校内実習からの学び

校内実習では、計数トレーニングや丁合い等の練習から始まり、外部の会社から依頼を受けた本物の仕事を行うことで生徒1人ひとりに責任感が生まれます。失敗を報告せずにいると周りに大きな影響を及ぼすことを知り、また、校内実習で学んだ教訓を忘れず仕事に対して取り組む姿勢が身に付く、その他にも数多くのことを座学でなく作業学習という体験から学ぶことができます。

今年度も校内実習を通じ多くの経験を積むことによって、作業意識・意欲の向上、個々の課題の確認・克服に繋げることができ、職場実習、さらには就労に向けての準備が進められました。スキルを身に付けるだけでなく、実際の職場で通用するための社会性も伸ばし、生徒の個性に合わせた職業教育を今後も実践していきたい。

## 4-3 農業従事研修の実施状況とその成果

### (1) 農業従事研修の概要

本研修では、「自然に親しみながら規律正しい集団生活を送るとともに、農業体験を重ねることにより農業分野での就労の可能性を追求すること」を目的としている。本研修は、平成21年度から始めた取り組みであり、本年度で8年目である。具体的には、地元のNPO団体と連携し、都市部では実施困難な継続的な農業従事体験を、南アルプス市という古くからの果樹産地において、農繁期を中心に、本校に在籍する自閉症児が自然に親しみながら行っている。果樹栽培や果樹加工業で『おやてっと（甲州弁で「農業の手伝い」）』に取り組ませていただいていた。最近では野菜作りや稲作も行うようになり、働く基盤作りを行ってきている。

### (2) 農業従事研修の現状（28年度）

- ・対象生徒 本校の中～重度の自閉症の障害のある生徒 計43名
- ・実施時期 4月～10月の間に、計3回の研修を実施
- ・実施日数 1学年 2泊3日 2・3学年 3泊4日
- ・宿泊場所 南アルプスチロル学園（山梨県南アルプス市芦安）  
※本学園と南アルプス市との間で占用使用契約を結んでいる。



南アルプスチロル学園

### (3) 本年度の活動内容及び参加した生徒の感想

<第1回>5月23日（月）～26日（木）3泊4日 2年C組 14名

2年C組 Aさん

5月23日～26日まで、3泊4日の農業従事研修がありました。私は、生活班の班長としてしっかり指示を出し、班をひっぱっていきました。

今回はさくらんぼの収穫やニラを植える作業などを行いました。さくらんぼの収穫では脚立を使って高い所にあるさくらんぼを取りました。脚立を使うのは初めてでしたが、すぐに慣れてたくさんさくらんぼを収穫することが出来ました。夜はスポーツ大会の応援練習やトランプなどを行い、クラスの人と更に交流を深めました。

今回の農業従事研修では、農業についてだけでなく、チームワークの大切さ等、たくさんことを学びました。これからの学校生活にも活かしていきたいです。



▲除草作業



▲木材運び



▲さくらんぼ収穫



▲さくらんぼ収穫



▲ニラの苗植え

<第2回>7月4日（月）～7日（木）3泊4日 3年C組 14名

3年C組 Bさん

7月4日～7日まで農業従事研修がありました。初日は、畑の開墾と草むしりをしました。雑草などをとったりするのが大変でした。2日目は、プラムをとる作業と、選別の作業などをしました。難しかった作業は、計量の作業が難しかったです。3日目は、じゃがいもほりと、マルチはがしなどをしました。外は大変暑かったので、暑い中作業するのがとてもきつかったです。じゃがいも掘りは、土の中をさぐったりしなければいけない作業だったので、とても大変でした。ナスのくきを支柱にひもで結び付ける作業もありました。最初は大変でしたが、慣れてくると意外に簡単でした。最終日は、落ち葉と小枝あつめと部屋の掃除をしました。小枝あつめがとても大変でした。最後の農業従事は大変でしたが楽しかったです。



▲除草作業



▲枝運び



▲プラムの収穫



▲プラムの検品



▲プラムのバック詰め



▲じゃがいも掘り



▲茄子の苗の支柱括りつけ作業



▲マルチ剥がし



▲落ち葉・枝の仕分け

1年C組 Cさん

僕は10月17日から19日までの3日間農業従事研修に行ってきました。まずは1日目にハッピーパークの裏の加工場でジャムの箱作りと金木犀の花とがくとを分ける作業をしました。まず箱作りをした時は、最初はどちらが正しいのか分からなかったけど先生がやり方を教えてくれて出来るようになりました。それからやってみるとだんだん楽しくなってきました。その後僕は金木犀の花とがくとに分ける作業をしました。最初はすごく雑になってしまったけれど、だんだんできるようになってきて楽しくなってきました。2日目はひえ取りと稲のはさがけをしました。ひえ取りは鎌で田んぼに生えているひえという草を取りました。稲を取ってはいけなかったの、ひえを見つけるのが大変でした。稲のはさがけは稲の束をエックス型にして干す作業でした。この作業はあまり難しくなかったです。この二つの作業をして僕は農業の仕事の大変さを学びました。3日目は草取りをしました。草を取ってそれをドーナツ型に木の周りにおいていく作業がすごく楽しかったです。草取りでは集中出来てすごく疲れました。

この3日間の農業従事研修はすごく勉強になり、すごく楽しかったです。また行きたいと思いました。



▲ジャムの箱作り



▲金木犀の選定



▲ひえ取り



▲稲刈り



▲稲干し



▲除草作業



▲チップ撒き



▲長靴洗い

#### (4) 教育的効果

農業従事研修では、主に田や畑などでの屋外活動が多く、生徒たちは開放的な環境でのびのびと作業に取り組んでいる様子が窺える。自閉症児にとって、土をいじることや自然と親しむことはストレスを解放できる場所でもあるようだ。特に除草作業などは、作業が進むことによって、綺麗になっていく様子が分かりやすく、仕事の先や終わりが見えやすいことから彼らにとって力を発揮しやすい仕事である。

また、座って行う手先の細かい作業ではなく、広々とした場所で、体全体を使いながらの作業は時間が経つのが早く感じられ、知らず知らずのうちに長時間での立ち作業に従事することになる。それによって就労に必要な持久力や忍耐力が自然と向上する。実際に農業従事研修参加を境に、校内でも長い時間の作業や活動でも、集中力を持続出来たり、諦めずに強い気持ちを見せたりして最後までやり通す姿が見られるようになる。

時には屋内の加工場などでの仕事を手伝わさせていただくこともある。加工場での作業は実際の工場働く方たちの横で作業をやらせていただくことで、自分たちの取り組んだ仕事かどのような形で完成していくか、ジャムなどの日ごろ目にする多くの食品がどのように作られていくのか、その過程を目にすることができ、もの作りの仕事への理解や興味が進む。また、果実の種取りなど、重度自閉症児が集中して取り組みやすく、活躍の場が広がり、それぞれの生徒に合った仕事を提供しやすい。加工場での経験の後に戻った宿舎でジャムを見ると、「今日作ったのと一緒にです」「私たちが作った箱に入って売られています」などと話す生徒もいた。また、東京に戻ってしばらくしてから、保護者とデパートに買い物に行った際に、「この箱は僕が組み立てた箱に似ているね」などと、目に入るものの多くが「誰かの仕事で作られたもの」として意識するようになる。

農業従事研修では、全てが疑似体験ではなく本物の体験ということもあり、興味をそそられ、本物を扱うことの緊張感から、学校での活動以上の集中力を発揮することや、意外な才能を発揮することがある。細部や力の入れ具合に気を使い、商品を丁寧に扱う意識が伴わなければならない作業（果実の収穫、稲とひえの区別、苗の取り扱い、果実の選定、花弁選定など）、高所での作業（さくらんぼなど果実の収穫）、刃物など取り扱いに気をつけなければならない作業（ひえ、雑草などの刈り取り、薪割り、開墾作業、さくらんぼの種取りなど）や、体全体を使う作業や大まかな作業（開墾、稲・藁・雑草運び、稲干し、藁撒き、除草作業、マルチ貼り、さくらんぼの種取り、箱の解体、箱作りなど）があり、それぞれの課題や個性に応じた作業に取り組むことができる。また、全員が1つの作業の過程のどれかに必ず関わることができ、作業終了・完成に貢献することができる。これらによって、農業従事研修では自信・達成感・一体感・自己肯定感などを校内での活動以上に得ることができる。

また、農業従事研修では家庭や学校での手伝いから仕事へと昇華をしていく過程を実感させることができる。日ごろから様々な手伝いに取り組んでいても、同じような活動を仕事としてとらえたり、手伝いで得た経験が即仕事に結びつくような体験をしたりするまでには時間がかかることが多い。しかし、農業従事研修ではお手伝いの基本となる単純作業（取る、置く、運ぶ、移動する、押さえる、渡す、受け取る、出す、しまう、洗うなど）だけでも実際の農作業として行えることも多く、また、対象となるものが農作物（食べ物や草木）ということもあり作業の部材などに比べ、親しみやすく、より自然に扱うことができるため、日ごろのお手伝いと同じように取り組みながら実際の仕事を行うことができる。しかも、仕事としての緊張感や、終了後の充実感・達成感はお手伝いとは別格である。

これらの教育的効果から、まさに「おやっ」と仕事をしながら行う可能性の大きさを感じることができる。

## (5) 今後の展望

本校を卒業した自閉症者の農業分野での就労の可能性を探求し、新たな職場開拓の足がかりとする。最終的には卒業後、希望者は『おやてっとのプロ』として生計を立て、ここに生活の基盤を築けるようなプランを描いている。



### 4-4 障害のある生徒の保護者向け研修会の実施状況とその成果

#### (1) 目的

発達障害のある生徒の保護者を対象に、生活・学習等における指導上の様々な情報提供、情報交換に加え、卒業後の就労・社会生活に必要なスキルアップに向けての学びの場として、家庭と学校が協力し指導の効果を高めるための研修会である。

当初、この研修会は母親研修会と称していたが、平成7年度より保護者研修会と名称を改め、開催日を土曜日に設定したことにより、父親の積極的な参加も年々増えてきている。

#### (2) 第1回保護者研修会

①日時：5月7日(土) 9時10分～12時

②内容：校長の話

教育統括部長の話「保護者研修会の意義、就労に向けて」

1 学年：専門コースガイダンス

2 学年：実習全般について

3 学年：就労について

専門教科、担任より

③レジュメの一部「保護者研修会の意義、就労に向けて」

<p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;"><b>保護者研修会って？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実績・現状からのアドバイス</li> <li>就労と就職の違い</li> <li>親亡き後の生活設計</li> <li>対象が広いから情報収集</li> </ul> <p>就労支援 就労継続A型B型 一般就労</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>根拠の無いうわさ話に惑わされない (実例から 火の気もないのに煙立つ)</li> </ul>	<p style="text-align: center;">2</p> <p style="text-align: center;"><b>就労に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>驚きの入学時 勉強より皿洗い？(5年生なら別)</li> <li>習い事より人揉まれ？(卒業生より)</li> <li>最重要はマナーや礼儀と時間厳守？</li> <li>好きなこと幅拡大？(偏りはストライクゾーンを、)</li> <li>A合格とB合格について (本人の特性をより深く理解するためには)</li> </ul>
<p style="text-align: center;">3</p> <p style="text-align: center;"><b>教員のスタンス・気持ち</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見守り時間とアフタフォロー 卒業後も継続する関係性</li> </ul> <p>進路指導部出勤件数→年間約〇〇〇件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>結果の蓄積とフィードバック 失敗例は数多く+修復も同数 =課題点や在学中の必須項目精選</li> <li>時限的なスリム化とPDCA 1,000日間のPlan・Do・Check・Action</li> </ul>	<p style="text-align: center;">4</p> <p style="text-align: center;"><b>2 実習先が決定するマッチング</b></p> <p>就労職種を ストライクゾーンに例えれば、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゾーンを広げるためには →多趣味になる →基本的 生活スキルアップ →様々な経験を積む →多くの人に揉まれる</li> <li>ゾーンを広げれば、 →職種業種を選ばない →チャンスも広がる →配置転換に有利 →転職にも有利</li> </ul>
<p style="text-align: center;">5</p> <p style="text-align: center;"><b>3年生</b></p> <p>5月以降随時職場実習 9月から内定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>確約の出る生徒もいる →職場になじみやすい (慣れない環境にフィットする)</li> <li>逆指名を受ける生徒もいる →職場になじみやすい 職域広い</li> </ul> <p>※昨年の例: 職域狭い生徒は決まりにくい ストライクゾーンを広げる努力はできたか？</p>	<p style="text-align: center;">6</p> <p style="text-align: center;"><b>2年生</b></p> <p>9月以降に職場実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内の実習にて改善点を見つけて、 トレーニングしておく。</li> <li>実習打ち切りもある。 →職場から実習終了とされる(環境不適應)</li> <li>9月から順次年度末まで。 →複数人数を同時に行えない (初日・中日・最終日→進路指導部)</li> </ul>
<p style="text-align: center;">7</p> <p style="text-align: center;"><b>1年生</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境になれる →フィッティングする力 →変容力</li> <li>多くの経験をする →狭いストライクゾーンを広げる</li> <li>人に揉まれる →就労後は、一般就労も福祉的就労も、</li> </ul>	<p style="text-align: center;">8</p> <p style="text-align: center;"><b>就労に向けてポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境フィッティングする練習</li> <li>コミュニケーション大事</li> <li>一般家事の充実</li> <li>マイナス個性の改善はマイナスなし (ツメ噛み、髪いじり、顔さわり、鼻ほじり、NG×) (口をあけて咳払い、あくび、トイレの作法)</li> </ul>

④保護者からの感想

<1学年>

- 息子は精神面が弱いので、苦手な人とはある程度距離をとるようにさせていたので、人にもまれる経験をさせていかなければならないのは耳が痛い話です。でも社会に出る前に色々経験して強くなってほしいと思いました。また、お手伝いの質を考えさせられました。家庭でも頑張っていきたいと思いました。
- 全体会で印象に残った点は「好きを仕事に」から「仕事を好きに」です。
- 保護者研修会がなぜあるのかの理由を聞き、社会が求める人間になる為にも、時間厳守、挨拶、礼儀など、この1,000日間できちんと身につけたいと思いました。
- 実技体験、とても貴重な経験になりました。普段の子供の様子がよくわかりました。
- 高校3年間でという考えでなく、2年生の実習が始まるまでに身につけるということに気付かされ、気を引き締めて家庭においても取り組んでいかなければと思いました。
- 何か秀でることを目指すより、いかに苦手なことをなくしていくかを考えることが大切だと思いました。人に認めてもらうために努力は不可欠だということも改めて思いました。
- 高校3年間は大変短く、3年後に社会に出るためには今から準備しなければと思います。

<2学年>

- 今回の保護者研修会では進路についてのお話もあり、いよいよ2年生だということ、時間が無いということを実感しました。来週は校内実習も行われるので、課題となっているところは直していけるよう、家庭でも出来ることをしっかりやっていきたいです。
- 貴重な高校生活2年目の5月を迎え、本日も更に身が引き締まる研修会でした。生活に生かす知識、TPOに合わせる、報告、連絡、相談の大切さなど改めて勉強になりました。
- あっという間に2年生になり、気持ちばかり焦りを感じています。親なき後に通用する人間に少しでも近づけるよう行動していかなければと気の引き締まる思いです。

<3学年>

- 過去2年間の研修会でも繰り返し言って頂いた項目を今回改めてお聞きして、再認識させられた事が何点もありました。「習い事より人にもまれること」などです。
- 来年の今頃は社会人として一步を踏み出しているはずで、学校という拠り所がなくなってしまうことが恐ろしく感じます。
- 就労に関する色々な話を聞くことが出来て良かったです。手帳の更新、判定のこと、障害基礎年金の受給、既に受給していても打ち切られる場合があることなどの現状を知りました。
- 社会で通用するためのストライクゾーンは、この2年間で広がったのだろうかと考えました。仕事に対するイメージは元々弱いのであるから、真剣に実習をさせてもらい、その仕事を好きにさせて働きに出したいと思いました。

⑤考察

- 年度当初の意識付けとして効果が出るよう展開したことによって、良いスタートとなった。
- 保護者研修会の意義について確認したことで、この会の大切さを理解してもらうことが出来た。
- 就労に向けて大切な時間厳守、挨拶、マナー等を家庭でも意識して支援するようになってきた。
- 課題としては家庭によって温度差があり、直ぐに実行する家庭とそうでない家庭があり、その差が生徒の成長の差になって表れている。それをどう改善していくか教員側の課題である。

(3) 第2回保護者研修会

①日時：6月25日(土) 9時10分～12時

②内容：校長の話

教育統括部長の話「お手伝いの基本スキル」

グループディスカッション 卒業生の保護者のお話

専門教科、担任より

③レジュメの一部「お手伝いの基本スキル」

<p>1</p> <p><b>企業が求める人材</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 指示に対して素直・実直に行動する</li> <li>• 新しいことにチャレンジする癖をつけておく</li> <li>• 自分勝手に抑えられる</li> <li>• 集団と個人を分けて生活できる</li> </ul>	<p>2</p> <p><b>障がい者雇用で求められる人材</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 継続的な動作や根気</li> <li>• それぞれの会社でのルールに適應できる</li> <li>• 礼儀や整理整頓</li> <li>• その場の状況や相手を判断する力。(上下関係など)</li> <li>• 会社人であることの自覚→集団(チーム)の一員としての自覚</li> </ul>
<p>3</p> <p><b>就労のために必要な基礎力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• スキルも必要だが、、、</li> <li>• 基本的な人間力を求められる</li> <li>• 雇用する側からの要望は、就職と就労は非常に似ている</li> </ul>	<p>4</p>
<p>5</p> <p><b>それぞれの具体的な努力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Lv. 1 通勤→時間内で移動する練習をする 身だしなみ→制服の身だしなみを習慣化 勤務スケジュール →イレギュラーなスケジュールを実行する →急な予定変更を行う →天候によって行動選択を習慣化</li> </ul>	<p>6</p> <p><b>それぞれの具体的な努力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Lv. 2 敬語の反復・表情確認・挨拶返事の習慣化 定期的な、ひげそり、爪切り、調髪 ※指示だけで行かせない</li> <li>• Lv. 3 ミスの報告→人為的にミスを作り出す 整理整頓→置き場の決定と順番揃え 清掃・ゴミ処理→“お手伝い”が重要！！</li> </ul>

## それぞれの具体的な努力

- Lv. 4  
職場それぞれの特殊技能  
→職場実習で教授され、ジョブコーチ、鍛錬  
→職場毎のルールやマナーもある  
※マイペースを崩す練習も必要
- Lv. 5  
なし

## 基本スキルアップ

- 居住空間の基本  
窓を開けて換気  
高いところのほこりを取る  
拭き掃除  
洗剤・から拭き・水拭き・コロコロ  
※株式会社ベネッセスタイルケア  
「生活支援スタッフハンドブック」より

## ④保護者からの感想

## &lt;1学年&gt;

- 卒業生の保護者の方の貴重なお話、やはりお手伝いが大切ということ、そのためにどう取り組んだのか、何を選んだのかが分かり大変勉強になりました。
- 卒業生の保護者の方のお話は、この間まで高等専修学校にいらした方のお話でしたので、とても親近感を覚え参考になりました。
- 卒業生の方の在学中のお話を聞くことが出来、報告や相談することの大切さ、挨拶の重要性を改めて実感いたしました。
- 武蔵野東学園の歴史を改めて知り、大変ありがたく、先生方のご尽力に感謝し、武蔵野東学園の一人となれたことに感謝しました。卒業生の保護者の方のお話も大変参考となることばかりで、今後の生活に取り入れていきたいと思えます。
- お手伝いについては中学校からの延長で今までさせてきましたが、やり方を変えていこうと思えます。時間の区切り、お手伝いの追加、失敗経験等です。
- 1,000 日の修行もすでに 10 分の 1 が終わろうとしており焦りを感じます。学校に慣れることを優先してまだ何も向上させていない気がいたします。ミスの報告、作業時間の設定など、まずは当面の課題として取り組んでいこうと思えます。

## &lt;2学年&gt;

- OBの方々はそれぞれ大変な思いをし、克服され、それを語って下さいました。学校の間は多に失敗し、問題点を明らかにして学校でも指導して頂けたらと思えます。
- お手伝いは時間を決めて行く、ミスを報告できるようにとのお話、そして卒業生の保護者のお話でも、「ごめんなさい、すみません」が大切とありました。稀に報告できた事を褒めることが出来ない母がまず変わらなければと反省しています。
- 卒業生の保護者の方々のお話を聞かせて頂き、やはり子供の特性を理解し、本人にあった就労先を見つけられることは幸せなことだと改めて思いました。出来ることを増やすためのお手伝い、精神力と体力をつけるために部活。スキルアップの授業以外でもやらなくてはいけない事が山積みです。
- 卒業生の保護者の方の「子どもと会話を多く、本人の考えている事を知る」というお話を、早々週末に話を多くしてみました。時計を気にしてばかりでした。継続していきたいと思えます。
- 先輩のお母さま方のお話を伺い、先輩方も日々葛藤されていたご様子があり、課題を克服する結果を卒業までに得ようとするよりも、日々課題に取り組みつつ子どもと向き合っていく、

今の過程を大事に意識していきたいと思えます。

- 先生の話の中に就労の土台は保護者の比率が 70%～ 80%とありましたが、OBの保護者の方のお話を聞いて実感しました。皆さま真摯にお子様と向き合い、保護研で教わった掃除等を実践していました。いつも三日坊主になってしまうので、気を引き締めて決めたことを継続していきたいと思えます。

## &lt;3学年&gt;

- 卒業生の保護者の方々のお話を聞き、やはり基本は大事だと思えます。笑顔で挨拶する、身だしなみを整えるなどの日ごろから出来ることはきちんとやらせようと思えます。お給料のお話は具体的な金額を示してお話下さったので参考になりました。お金に関しては、最初親が管理して少しずつ渡していこうと思えます。
- 就労がいよいよ目前に迫り、保護者研修会の重みもひとしお感じております。正にこれからは親としては法律に対しての活動、本人としては無事に就労先が決まった後も、3年、5年、10年先まで見据えたモチベーションの維持、タイミングを見てのステップアップを意識していこうと思えます。
- 親がいないことを想定した子供の生活、行動を考えると出来ないことばかりなので、出来る事を少しずつ身につける必要があることがよく分かりました。就労に向け残り少ない日々を先生方や先輩方のアドバイスを教訓にしっかりと指導していきたいと思えます。
- 企業が求める人材に近付けられるように、残り少ない時間ですが親子で頑張ろうと思えます。

## ⑤考察

- 教員が日々発する投げかけを裏付けるがごとく、卒業生の保護者のお話は在校生の保護者にとって非常に説得力のある話であったと言える。
- 保護者からの様々な具体的なアドバイスは大変有意義で、アドバイスを取り入れた家庭も多くあったようだ。
- 家庭でのお手伝いのポイントもより分かりやすく解説したので、今までのお手伝いの質が向上した。
- 保護者研修会の直後は各自の課題に取り組む家庭は多く見受けられるが、それを継続し子供の成長に繋げる家庭がどれだけあるか、追跡していく必要がある。

## (4) 第3回保護者研修会

①日時：10月15日(土) 9時10分～12時

②内容：校長の話

教育統括部長の話「実習に向けての家庭トレーニング、保護者の姿勢」

講演「18歳からの障害福祉サービス」

武蔵野市役所 健康福祉部 障害者福祉課 課長 吉清 雅英様

専門教科、担任より

③レジュメの一部「実習に向けての家庭トレーニング、保護者の姿勢」

1

### < 縦しぼりのやり方 >

雑巾を縦にして、右手を上(逆手)、左手を下(順手)に持ちます。剣道の竹刀やゴルフクラブを持つような感じ。

脇をしめて手首を内側にしぼり込むようにすると(向こうに押すような感じ)、無理なく力が入ってきっちりとしぼれます。反対に引くようにしぼるのはNGです。



2

### < ITとの付き合い方 >

トラブル事例

パソコン→知らないサイトにアクセス  
不当請求が来た  
個人情報の流出

携帯電話→ブログ・プロフで誹謗中傷  
アドレスを勝手に教える  
公共の場所で多角的連写禁止  
一斉送信返信で個人情報流出  
え？通信できるの??→プレーヤー等

3

### 一事が万事

玄関掃除の方法を、他で流用させてみましょう。  
廊下掃除、食事片付け、窓ふき、料理、、等々。

大事ななのは

初級 → 補助者が準備をして行動のきっかけを作る  
中級 → 準備と片付けを教える  
上級 → クオリティーの確認と制限時間を設ける  
曜日設定を忘れさせない  
最上級 → 指導者が現場を見ない状態で行わせる

4

### 今日の要点と指導の工夫

- ・関係ないなあ、と諦めないで
- ・繰り返し行うことで見つけられる指導者の眼
- ・VTRで自分を見つめる
- ・間違いを探り当てる現場をつくる
- ・ルーティンにしてもいいことと悪い事
- ・シンプルなルールを定着させる
- ・札勘から学ぶ(やってみる!)
- ・小遣い、賃金の良い例
- ・カードタイプ×スモールステップと継続

「18歳からの障害福祉サービス」

1

### 地域生活と親亡きあと

- 2000年頃までは入所施設も増加の一途
- グループホームが増えだしたのは2000年代に入ってから(国の方針も大きく転換)
- 本格的にグループホームが増えだすのは、障害者自立支援法施行以降

2

### 障害者自立支援法ができる前

- 日本の障害者福祉施策は、身体障害者、知的障害者、精神障害者が別々の法に基づき進められていた。
- 三障害でサービスは異なるけれど、共通していたのが「措置制度」であったこと。
- 2000年頃からの社会保障改革の流れ～  
「措置から契約へ」 ごく簡単に説明すると  
「措置」……行政が指示、決定  
「契約」……利用する人が主体的に選ぶ

3

### 18歳になると何が変わるの？

- 学校を卒業して社会人になる人が多い
- 選挙権を得る
- 愛の手帳は成人判定
- 「児童福祉法」のサービスから、「障害者総合支援法」のサービスに切り替わる
- 相談支援事業所も変わる
- 本人の所得で考える
- お酒は20歳になってから
- 年金も20歳になっての手続きだけど、その時に慌てないようにしておきたい。

4

### 学校を卒業して社会人に

- ①企業就労  
年々増加している。課題は、就労の継続性。
- ②通所施設  
自立訓練、就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型、生活介護など、いろいろな種類がある。
- ③進学  
専門学校や特別支援学校高等部専攻科  
……今のところは、ごく少数派

④保護者からの感想

< 1学年 >

- ・武蔵野市に住んでいるものとして、ご理解のある方が障害者福祉課にいらっしゃる安心感、有難さを感じながらお話をお聞きしました。我が子にどのような福祉サービスが必要なのかをきちんと伝えることが出来るよう、しっかり向かい合っていきたいと思います。
- ・私は三鷹市在住ですが、参考になることが多かったため、これから三鷹市の状況を調べて、事業所の見学など出来ることを今から少しずつしていきます。
- ・武蔵野市在住ではありませんが、今日のお話は他市のサービスを参考に自宅の市でサービスを利用する際の最低限持つておくべき知識と感じました。
- ・将来のことを考えるきっかけになりました。将来については漠然としたイメージしか持っていませんでしたが、公的な福祉サービスにはどんなものがあるのか、包括的に知ることが出来たことは有難いことでした。
- ・今回の保護者研修会では初めてお聞きする話が多く、とても参考になりました。福祉のこと、子供が就職後の事を今から考えなくてはならないと思いました。

< 2学年 >

- ・グループホームはまだ先の話と思っていましたが、「若いうちの方がスムーズ」というお話は確かにそうだなと思いました。
- ・携帯電話と自転車に付いてのお話は、両方登下校で使用しているので、しっかりルール、マナーを覚えて守らせていきたいと思っています。歩きスマホ、イヤホンをつけて音楽を聴きながら歩くこともあったので、止めるように再度話しました。
- ・福祉サービスについては、今までも色々調べているつもりでおりましたが、色々なサービスを受けるにあたって、年齢とともに変化する法律をしっかりと理解して、申し込み、手続きの時期を間違えないようにしっかりと対応していきたいと思いました。
- ・今は何事もなく生活しておりますが、将来必ず直面する問題をどう解決していくか。その際、どんな方法でどこへ頼ったらよいか、という不安が晴れました。地域は違いますが、今後積極的に行政を利用していきたいと思いました。
- ・障害福祉サービス等については、情報収集や勉強に努めていますが、過去10年そしてこれから先の10年、20年も刻々と変化する様子には、アンテナを高くして常にキャッチアップが必要と痛感しています。

### <3学年>

- ・障害があっても、武蔵野東学園のお陰で充実した学校生活を送れたことに改めて感謝しながらお話を伺いました。
- ・生活スキルアップのお話も、スモールステップが大切なのだと改めて気付かされました。つい焦ってしまいがちですが、「必ず成長する、出来るようになる」と信じて頑張りたいと思います。
- ・障害支援区分については、どのような時に必要なものなのか、また他にも分からないことがあったので、その疑問が解消されて良かったです。愛の手帳の更新、年金の手続きなどしっかりやりたいと思いました。
- ・企業就労と福祉サービス、グループホームや一人暮らしで受けられるサービスについて関心を持ちました。企業就労が長続きするためのスキル向上と合わせて、生活スキルの向上が家から自立するため大切だと感じました。
- ・先生のお話を聞くたびに今回もまた再認識させられた事があり、改めて徹底して行かなければならないと思い、就労に向けて頑張らなければならないと思いました。

### ⑤考察

- ・障害福祉サービスについて専門家の立場から説明して頂いたことで、保護者の理解が更に深まった。
- ・各家庭の市区町村の障害者福祉課に早めに連絡をとることで、情報収集をしようとする家庭が増えた。
- ・お手伝いの細かい支援方法を説明したことで、各家庭でのお手伝いの正確さが向上した。
- ・今回の福祉の話、スキルアップの話を日々の生活の中で活かしていくことが課題である。

### (5) 第4回保護者研修会

①日時：11月26日（土）9時10分～12時

②内容：校長の話

卒業生の職場での様子 ビデオ研修  
専門教科、担任より

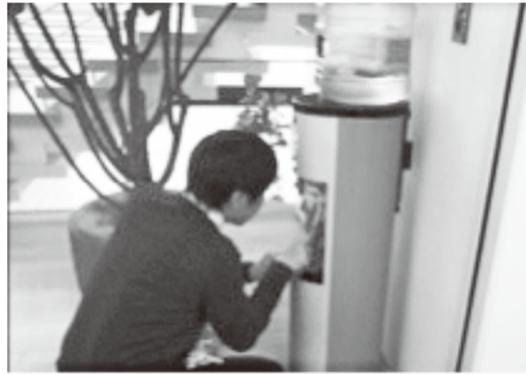
③卒業生の職場での様子の一部

<福祉就労>

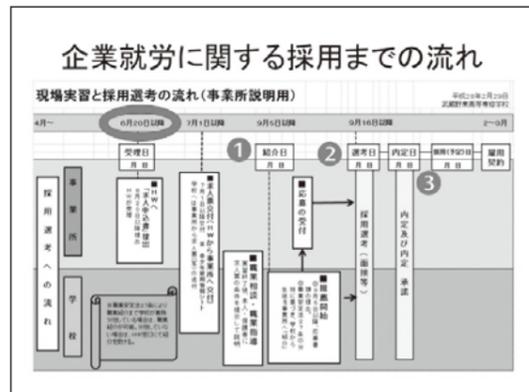


<企業就労>





④レジュメの一部「進路指導部からの情報提供」



### ダブルカウントとは

① 支給額(平成27年5月1日以後の雇入れより適用)

(1) 本表は、対象労働者の職別による賃金(注1)について1人あたり下表の支給額のほりです。

対象労働者	支給額	対象労働者の人数	支給総額(注2)
① 15歳未満(10歳以上の未成年)、母子家庭の母等	60万円 (50万円)	1名 (1名)	30万円 × 2期 (25万円 × 2期)
② 20歳未満(15歳以上の未成年)、母子家庭の母等	120万円 (50万円)	2名 (1名)	30万円 × 4期 (25万円 × 2期)
③ 20歳以上(15歳以上の未成年)	240万円 (100万円)	3名 (1名)	40万円 × 6期 (30万円 × 2期)
④ 15歳以上(10歳以上の未成年)、母子家庭の母等	40万円 (50万円)	1名 (1名)	30万円 × 2期 (25万円 × 2期)
⑤ 20歳未満(15歳以上の未成年)、母子家庭の母等	60万円 (50万円)	2名 (1名)	30万円 × 4期 (25万円 × 2期)

注1: 15歳未満(10歳以上の未成年)については、児童手当の支給額に準じて算定します。  
 注2: 「雇用労働者等」は、雇用労働者、100円未満、40歳以上の若年、100円未満及び精神障害者を含みます。  
 注3: 15歳未満(10歳以上の未成年)は、一週間の所定労働時間が、20時間以上30時間未満である者を含みます。

### 前回更新年度による違い

愛の手帳の更新は  
 3歳  
 6歳  
 12歳  
 18歳

ですが、13歳以降に更新手続きをされていると、3年次の事務手続きがスムーズになります。

### 大切な手続きなので

重度判定の申請を8月までに済ませる事が義務付けられていても、その判定が2月若しくは3月になります。  
 今年度、積極的にハローワーク・センターと連携した事で、結果的に事業所への移行がスムーズに行え、感謝される事象がありました。  
 毎年3年生の初めの説明で細かくお知らせする事に致しますので、ご安心下さい。

・卒業生の職場での様子をビデオで見た際は、中学校までは仕事内容の種類に目が行きがちでしたが、高等専修学校に入ってから見る視点が変わりました。就労する上で何が 필요한のか、挨拶、報告・連絡・相談、仕事への姿勢、意欲などの大切さを再認識いたしました。

<2学年>

- ・福祉、企業どちらにしても作業の正確さ、完成度100%が当たり前なので、ハードルは高いです。
- ・成人判定、重度判定の意味や手続き等を知り、これから行うべき手続きの良い予習となりました。制度が変わり先生方も手探りの状況と伺い、今後の保護研で来年度の状況も伺いながら、自分たちでも情報を収集しながら備えていこうと思います。
- ・幼いころから知っている先輩方が社会人として働く姿に嬉しく、また息子たちも皆意欲を持ち働く人になってほしいと感じました。また、福祉制度について就労についての日程や決定についてよく理解できました。
- ・卒業生の働く様子、知らず知らずのうちに自分の子供だったら、と頭の中で置き換えて興味深く拝見しました。特に企業就労は求められる能力が多いこと、こなす仕事の種類が多岐にわたることを思い知らされました。

<3学年>

- ・卒業して1年も経たない先輩達、皆さん本当に立派に働いていらっしゃる姿を拝見できて、涙が出そうになりました。学年が一つしか違わないので、保護者同士も親しくさせて頂いているので、小さかった頃の事も思い出されました。
- ・卒業生のビデオを見て、実際に生き活きと働いておられる姿が印象的でした。学校で経験することが全て1つ1つの積み重ねになり、こうなるのだろうと感心しました。自分の息子はまだ人により、環境により態度を変化させるので、先生方の存在なしに自立して社会に出ていけるのかと不安になりました。
- ・先輩方の素晴らし働きぶりに感動いたしました。来年、ちゃんと働いているところをお見せできるか心配になりましたが、頑張ってくれることを期待しています。社会人になるために様々な角度からアプローチして指導して下さる先生方に心から感謝申し上げます。

⑤考察

- ・卒業生が実際に働いている様子をビデオで見ることで、仕事の種類、仕事をする上でのスキルなど保護者がイメージを持つことができ良い機会となった。学年に応じてそれぞれの保護者が緊張感を持ち、これからの社会人生活の期待と夢を持つことが出来た。
- ・学校で行っている作業の授業、スキルアップ、HRなど全てがより良き就労に結びついていることを実感して頂くことが出来た。
- ・今回のビデオを生徒にも見せることで、就労することのイメージを膨らませてもらう予定である。

④保護者からの感想

<1学年>

- ・卒業生が立派に社会の一員として働いている様子のビデオを拝見し、感心したり、焦ったりというのが正直な感想です。焦ったり、不安を感じる部分は子供の弱みであると思うので、残りの学校生活で意識していきたいと思っています。
- ・卒業生が働くビデオを見て、働き始めてまだ1年にも満たないのに、細やかな気配りをしつつ、複数の作業もこなせている方もいて、あと2年しかないわが子に少々不安になりました。改めて確実にできる事を一つでも増やそうと思いました。
- ・先輩達が世の中に出て実際に頑張っている様子を沢山のケースで見させて頂き、大変勉強になりました。我が子の未来の姿を想像して重ね合わせて見ておりました。これから目標にしていけるべき事がより具体的にわかり良かったです。

## (6) 第5回保護者研修会

- ①日時：2月4日（土）9時10分～12時
- ②内容：校長の話  
教育統括部長の話「保護者研修会のまとめ」  
OB会の活動と入会についての説明  
専門教科、担任より
- ③レジュメの一部「保護者研修会まとめ」

1

### クローズドスキル

個人として一定のルーティンに沿って行動  
→意識を自己動作だけに集中できる  
→回数を重ねることで動作が速く、正確になる  
→動作が正確に速くなると精神的にも安定する  
→一種の成功体験から自信が発生する  
→個別的動作が多くなりコミュニケーションがとりにくい  
→ルーティン動作故にイレギュラーに弱い  
→失敗に対する耐性が不足する

2

### オープンスキル

集団の中で状況判断をしながら行動  
→自己の都合を抑えて情報収集を第一とする  
状況から思考して動作選択をする  
→数々の失敗成功を繰り返すので成長が遅い  
→自己抑制と失敗成功の反復で不安定になりがち  
→人間関係やコミュニケーション力向上  
→不安定状態への耐性が身についていく  
→イレギュラーな事象への対応力向上

3

### 1、お手伝いを分析する

<重要ポイント>  
・クローズとオープンをミックスする  
・現状の弱点強化を目標とする  
・安定できるクローズドスキルを作っておく  
・新たなオープンスキル作業を準備する  
・CAPスキルアップトレーニング  
○マンネリ化からの脱却  
○成功は大いに褒める 褒美もあり

4

### 3、OB会は保険でもある

卒業生アフターケアのメリット  
・企業や作業所が安心して採用できる  
・就労定着のための様子伺いができる  
・トラブル解決のために職場訪問  
・有事の際には学校で再教育もある

その反面、、、  
・卒業生は毎年増加  
・進路指導部の人員は一定固定  
・在校生徒のインターンシップなど実習増加

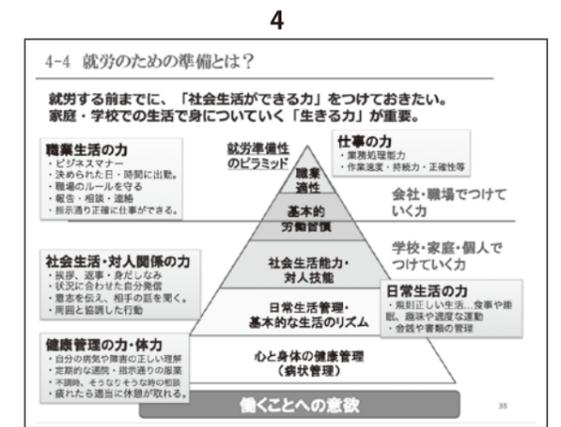
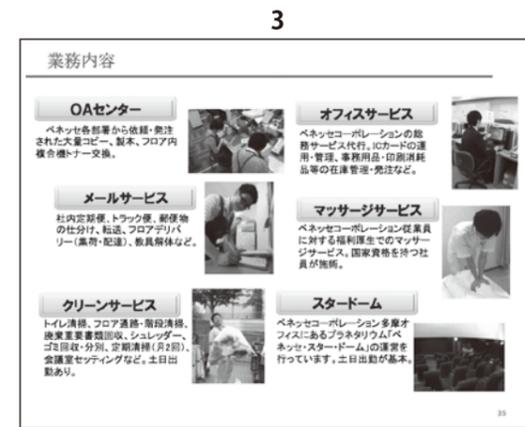
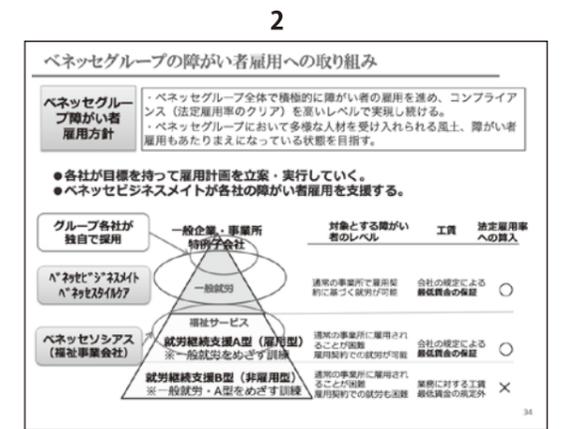
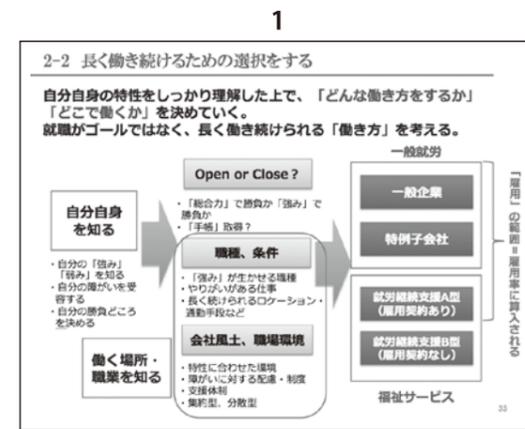
## (7) 合同保護者研修会

### 1. 第1回合同保護者研修会

- ①日時：4月11日（月）10時～12時（武蔵野東中学校 体育館）
- ②内容：むらさき会顧問あいさつ  
むらさき会長あいさつ  
各園校からの報告（幼・小・中・高・教育センターの順で）  
自閉児進路アドバイザー「進路指導に関するQ&Aについて」  
むらさき会より伝達事項  
役員紹介、会計報告、事業目標案、会則変更、むらさき運動会 など  
連絡事項 サマーキャンプについて  
※むらさき会とは、武蔵野東学園で学ぶ発達障害のある子どもを持つ保護者の会のこと。

### 2. 第2回合同保護者研修会

- ①日時：9月5日（月）10時～12時（武蔵野東中学校 体育館）
- ②内容：むらさき会顧問あいさつ  
むらさき会長あいさつ  
『ベネッセの考える障がい者雇用』株式会社 ベネッセソシアス 山口 元氏  
各園校からの報告  
むらさき会より伝達事項  
連絡事項 サマーキャンプの報告
- ③レジュメの一部「ベネッセの考える障がい者雇用」



### 3. 第3回合同保護者研修会

①日時：1月16日(月) 10時～12時 (武蔵野東中学校 体育館)

②内容：むらさき会顧問あいさつ

むらさき会長あいさつ

講演 「障害基礎年金についての考察」

～受給するためにではなく、どの様な症状が該当するのかを知る～

自閉児進路アドバイザー 今城 慎一郎

各園校からの報告

むらさき会より伝達事項

連絡事項

③レジュメの一部「障害基礎年金についての考察」

1

#### 有期認定・・・

有期認定は、1～5年となり、それ以降の更新月は7月(年一回)となります。

有期認定となる要因としては、

「等級変化の可能性がある」

「障害の特定が出来ていない」

といった事が、挙げられます。

有期認定が、『3年から1年』の様に減少したり、初めての認定が『1年』となるケースは、次の判定で、非該当になる事が暗に告げられていると解釈しなければなりません。

2

#### 障害年金とは・・・

20歳前の障害・・・

障害基礎年金 1・2級

(国民年金)

※ 2級は老齢基礎年金と同額

就労後の障害・・・

障害厚生年金 1・2・3級 一時金

(厚生年金)

※ 共済年金ならば 障害共済年金

本校の卒業生は【 障害基礎年金 】

3

#### 提出書類は・・・

基本的には、

「病歴・就労状況等申立書」

「障害年金請求書」

「受信状況等証明証」

「診断書」

の4点を、お近くの年金事務所や市(区)役所または、町村役場に提出します。

状況によって、他の書類を提出する事になります。

4

#### 遡及(そきゅう)請求①・・・

20歳前の障害のある方については、20歳の誕生日から年金申請が出来ます。

何らかの事情で、年月が過ぎてから申請をすることもありません。一般的に福祉では遡っての請求は出来ません。

しかしながら、条件を満たしていれば、最長5年分の請求

を初めての請求時に限り遡って請求する事が出来ます。

何時役立つかわかりませんので、申請云々に関わらず、

診断書はきちんと保管しておきましょう。

### (8) まとめ

本校の保護者研修会年間5回、合同保護者研修会年間3回を通して、保護者は大変多くの事を学ぶ良い機会となると共に、教員との情報交換の場にもなっている。また、在学中3年間この保護者研修会に参加し積み重ねることにより、保護者は我が子を社会に送り出す準備を整え、意識を高めることができる。具体的には以下のようなメリットがある。

- ・クラスの様子を知る
- ・家庭課題の取り組み方を具体的に知る
- ・専門教科の様子を知る
- ・就労に向けての意識づけが出来る
- ・就労に向けて様々な情報を得る
- ・専門の外部講師から情報を得る
- ・卒業生の保護者から直接話を聞く
- ・教員との絆が深まる など

以上のことが生徒の成長に繋がっていると確信している。

## 第5章 まとめと課題

本校は、本学園内にある中学校で学ぶ自閉症を中心とした発達障害の生徒のために社会自立を目指した最終教育現場として開校した。広く公立の中学校を中心に健常な生徒を受け入れ、混合教育を実践し、高等専修学校としての職業教育を推進してきている。これまで社会に送り出した発達障害のある卒業生は、941名（平成28年4月1日現在）を数える。本事業では、これまで積み重ねてきた就労支援及び卒業後の定着フォロー支援の成果を表し、全国の高等専修学校を中心として本校の取り組みを普及することを目指して取り組んできた。

本書において、本校の就労支援及び卒業後の定着フォロー支援の概要（第2章）、就労支援に特化した進路指導年間活動カリキュラムの構築（第3章）、就労に向けた本校独自の教育支援の取り組みとその成果（第4章）について、取りまとめたものである。

第2章については、本書で今年度の概要を記した。別に本校進路指導教員5名が、構成機関となっている企業、福祉事業所にご協力をいただきながら、これまで積み重ねてきた経験から有効な事例を取りまとめた「就労・定着フォロー支援事例集」を成果物として完成させている。本書だけでなく、事例集も併せて活用していただきたい。

第3章は、昨年度の課題を踏まえ、就労支援に特化した年間活動カリキュラムで、生徒、保護者への支援内容と、進路指導担当者として企業、福祉事業所、行政機関等との連携内容についてわかりやすく整理したものとなっている。就労に向けて生徒、保護者、進路担当者が、時期に応じて何をすべきかを明確に示したものとなっている。

第4章については、本校における独自の取り組みについての紹介ではあるが、その取り組みにどのような成果があるのかを実証すべく、生徒、保護者を対象に取り組みごとに毎回感想や意見を求め、整理してきた。昨年度は取り組み内容紹介にとどまっていたが、生徒、保護者からの声を聞くことによって、その成果が明らかになり、その必要性の裏付けになったと確信している。

最後となるが、この成果報告書には、本校に在籍する発達障害など特別に配慮が必要な生徒の就労支援及び卒業後の定着フォロー支援の実際が記してある。また、別に成果物として「就労・定着フォロー支援事例集」が完成している。これらの成果物をもとに、本校の取り組みが、少しでも全国の高等専修学校の進路指導の一助になることを強く願っている。また、本事業と別に「混合教育（インクルーシブ教育）の教育効果の実証と普及・啓発及び発達障害など特別に配慮が必要な生徒が学ぶための教育カリキュラムの開発・実証事業」にも取り組んできた。是非とも2事業の取り組みの成果をあわせて目を通していただくことを切に願う。

本事業については、次年度も継続し、本事業の取り組みの総まとめとして、卒業生の就労の様子を映像として取りまとめ、本校だけでなく全国の高等専修学校で学ぶ当該生徒の就労の門戸を広げていけるような事業とさせていただきたいと希望するものである。